

ニュージーランド法会での説法

一九九九年五月八日

(拍手) 皆さん、こんにちは！

在席の皆さんの中にシドニー法会で会ったばかりの方もいますが、大多数の人はニュージーランドの学習者、或いは他の地区から来られた方々です。皆さんは修煉の過程で起った様々な問題を聞いてみたいと思っています。ですので、私がここへ来た目的は皆さんにお会いし、法会の中にそういった問題にお答えします。この法会によって、皆さんが本当に向上し、圓滿成就することができるようにしたいと思います。同時に皆さんがお互いの差を探し、他人の修煉の様子を見て、自分の足りないところを見つけることもできるでしょう。これこそ、私たちがこの法会を催した目的です。

修煉の中で、皆さんにあれやこれやといった問題がきつとあると思いますが、実際のところ皆さんに言いますが、多くの方は長きにわたる法の学習を通じて、次のような体験があると思います。つまり自分にはそんなに多くの質問がないのです。なぜそれほど多くの質問がないのでしょうか？ 私に会っても提出する問題がありません。実はその主な理由は皆さんが法を学んでいく中で徐々に法に対する認識を高め、本当に法に基づいて向上できるようになったからです。法に基づいて法を認識することができれば、全てのことが分かってくることに気付くのです。ただし大法は常人社会の中で伝えられており、絶えず新しい人が学びに来るので、絶えず問題を提出する人がいます。しかし皆さんも恐らく感じていると思いますが、こういった法会の中に提出される質問は往々にして重複しています。つまり、毎回提出された多くの問題は他の法会で既に提出されたものです。なぜでしょうか？ 新しい人が絶えず入ってきて、その人たちが質問を提出するので、往々にして法の学習の初期に出会う問題を繰り返しているのです。もちろん古くからの学習者が提出する問題もありますが、それはある面のことについて更に知りたいから質問したのです。しかし本を読んで法を学びさえすれば全てが分かるようになります。本を読みさえすれば、異なる次元でその次元に応じて知るべきことが分かるのです。

当然のことながら、皆さんは修煉の中で一つの文の内函が分かった時、既にその次元にいるということです。ただ皆さんの常人の部分にまだ常人の考えがあります。常人の考えとはどういう意味でしょうか？ つまりあなたにはまだ常人の七情六欲が

あり、常人のいろいろなことについての執着があり、常人の情をもって問題を捉える等々常人の考えがあります。更に後天的に形成された観念もあり、その中には業力や思想業力もあります。あなたは修煉の過程にいるのですから、必ずこういったことが存在していますが、ただ多いか少ないかの違いだけです。修煉の中でどんどん少なくなっていくはずですが。修煉の時間はあまり長くない人、或いはあまり精進していない人なら、常人の考え方が比較的が多いのです。つまり、皆さんがそれほど多くの常人の考えを持っており、高い基準の考えに基づいて物事を見ることができなければ、多くの問題を提出するでしょう。本当は常人としての観念がまだ多いからです。直ちにありある境地で多くの法理を理解し、まるで功が開き、悟が開いたかのように明らかになることは許されていないのです。まだ人としての考えが多いのですから、佛のことを人の考えをもって知ることは許されませんし、神の境地での本当の法理と真実の状況を人に見せてはいけません。法の表面において、修煉によってある一文、或いは『轉法輪』の一段落に書かれた法理が分かったら、即ちあなたはその次元にいるということです。多く理解させないのはあなたに常人の考えがあるからです。常人のようなまだよく修煉できていない部分に佛のことを知らしめてはいけません。こういう道理なのです。しかし、あなたがその言葉の本当の内函が分かったとき、或いは異なる次元にあって異なる理解ができた時、あなたは既にその次元にいるのです。

皆さんはまだ常人の中で絶えず修煉し、絶えず常人の執着心を取り除かなければならないので、常人の考えを修煉の過程から一度に取り除いてはいけません。全て取り除いてしまったら、皆さんは修煉ができなくなります。私はいつもこう言っていますが、もしある人に常人の考えがなければ、人が考えている全てのことが分かり、人の一挙一動、目配せに至るまで、物事が次にどうなっていくのか全て分かるようになるのです。なぜ皆さんは現在まだ知ることができないのでしょうか？ つまり皆さんにはまだ人としての考えがあり、常人と混在しているからです。もしあなたが常人の境地から抜け出すと、常人のことは一目瞭然になります。しかし皆さんは全て常人の中で修煉しています。もし常人の中にいながら修煉するのでなければ、向上できません。今日たった今すべての常人としての考え、よくない要素を全部取り除き、常人としてのいろいろな観念も取り除き、完全に純粹で清浄な自我となったら、修煉できなくなること気づくのです。なぜでしょうか？ 皆さんもご存知の通り、神が圓滿成就した後は修煉し続けることができないのです。迷いは全て明らかになったからです。もしあなたに常人としての考えがなければ、あなたは常人の状態ではなく、迷いもなくなり、自らの過去や未来だけではなく、他人のことも分かってしまうので、修煉はとて難しくなるのです。しかし皆さんが過去や未来を知ることができると修煉できなくなると言っているのではありません。というのもあなたが現在知ることのできるこ

とは限られているからです。私の言った、知ることができるというのは完全に悟りを開いた状態で、全てのことが分かり、分からないことは何もないということですので、このような違いがあります。つまりあなたは常人の中で大法を修煉しており、圓滿成就する前に常人としての考えが全くなくてもだめです。しかし常人の考えがあれば、異なる次元の真相を知らせることはあり得ません。即ちこういった関係があるのです。

では皆さんに常人としての考えがある以上、修煉の中で油断すると、その観念で大法を押し量ってしまうことがあります。必ずこういったことが現れてくるのです。つまり皆さんの修煉の中でトラブルが起こり、関を乗り越えるということがあり、常人の考えを取り除くことができないということがありますが、これが即ち修煉なのです。大法の中での修煉は人としての考えを一枚一枚取り除いていくことです。ご存知の通り、玉ねぎのように一枚一枚はがしていくと最後に全てなくなります。これがその本質なのです。大法の中での修煉はいつに全てを取り除くことはできません。もしそうしてしまえば、常人の中で修煉することはできなくなります。なぜならば、あなたは表面上においても常人の中の一人ではなくなってしまうからです。

大法の中にあって修煉する時に、もう一つの問題が現れてきます。つまり皆さんが修煉している時、うまくできる時があり、ある出来事に突き当たり、確かにその瞬間或いはその期間は執着心を放棄して淡々として乗り越えたのです。しかし、またしばらく経てば執着心が再び現れ、同じ出来事、同じ問題ですが、根本的にそれが取り除かれていないことに気づくのです。また現れてきました。実はそうではありません。皆さんに教えますが、大法修煉の方法は階段のように層を成しています。さっき例として玉ねぎを挙げたように、取り除かれた一層はもはや存在しませんが、まだ取り除かれていないところがまだあります。つまり一枚一枚取り除いているのです。全て取り除けば、何もなくなるのです。

皆さんは修煉の中で往々にして法に対する認識が足りないために関を乗り越えようとするときに困難を伴い、法理に照らして物事に対処すべきだとはっきり分かっているのにまだこういった執着心があります。これでは圓滿成就できないのではないかと考える人がいます。多くの人がこういった考えを持っています。実は皆さんに教えますが、そういうふうに考えないでください。その関をうまく越えてもうまく越えられなくても執着心を放棄したにしても、或いは少しばかり放棄したにしても、あなたは修煉の中にあるのです。それが修煉なのです。というのはあなたが関をうまく越えられずに後になって後悔し、どうしてうまく越えられなかったのだろうと悔しく思い、

次の時にしっかりその関を越えなければならないと決心します。これこそ修煉です。皆さんが全ての関、全ての難、全ての試練を全て立派に乗り越えられれば、修煉する必要などありません。圓滿成就してしまいます。あらゆることに遮られなくなるのは覚者だけで、悟りを開いた人だけがその状態に到達できるのです。

ただし気をつけていただきたいことは、これを聞いてよく分かったようで、執着心をもって逆に理解してしまう人がいます。うまく乗り越えてもうまく乗り越えられなくても全て修煉なのか、よし、それならばこれから急ぐことはない、うまく乗り越えられなくても焦ることはないという様になってはだめです。もしも自らを修煉せず、精進することができなければ、修煉していないということです。こういった弁証法的な関係があります。私たちの法理にこのような物事の見方、このような法理に対する認識の方法は、低きから高みに至るまで、異なる次元を貫いています。あなたがこの次元にあって、これは正しいと認識したものを、次元を変え、別の角度から見るとそうではないことが分かります。これこそ皆さんが絶えず向上し、絶えず修煉していく中での法に対する絶えざる理解なのです。

私がここで話していることは皆さんの修煉の中で多くの問題を提出することは必然であるということです。ただし皆さんが本当に法に基づいて向上し、法に基づいて法を認識することができるならば、向上は非常に速いでしょう。しかもあなたにとってよく分からない問題、提出した問題も法の中で解決できるでしょう。その唯一の方法は本を多く読むことで、ただ動作を煉っているだけではありません。このことについては白人、或いはその他の民族の学習者の中にそういった認識を持っている人が多く、気功を練習することはつまり動作を煉るだけで、他に何もありません。どうして本を読まなければならないのかといったような考えを持っています。本当のところ、これこそ皆さんの認識の中で最も足りないところです。気功の動作を煉ることと体操とはどれほどの違いがあるか考えたことはあるでしょうか？ 表面上の違いはわずかですが、なぜ気功を練習することによって人を向上させ、病を取り去ることができるのに、体操ではできないのでしょうか？ 即ちそれは修煉だからです。しかも修煉の内函は動作だけでは不完全であり、動作はただ修煉の一つの補助的な手段であるに過ぎません。本当に向上させてくれて、あなたを異なった境地へ行かせてくれる根本的な原因はあなたの法に対する理解であり、つまりあなたを指導する法があって始めてその位置に昇華できるのです。ですから、私は心性の高さが功の高さであると言いましたが、これは絶対的な真理です。

以前、多くの方は道を修めることや気功を煉る時に、一つの秘訣やコツ、或いは一

つの特異な動作を取り入れることさえすれば、修練して向上できると思っています。それは人に知らされたことですが、修練によって向上できる本当の原因は人に知らせてはいけないことでした。そうでなければ、誰でも仙人になれるのです。つまり、指導方法があり、指導する理論があり、修練によって向上するやり方があるということです。私たちは今日このことをはっきりと言えば、即ち指導する法理があるのです。しかしこれまでに伝えられた修道の方法は往々にして世間の小道のものが多かったのです。

人の考えの中にある本当の大道は老子、イエス、釈迦牟尼の伝えたもので、その他の大多数は世間の小道です。そういったものはもっと単純なのですが、動作はかえって複雑で、法理上のことはあまり知らないのに、修練がもっと難しいのです。苦しく修行することだけにしがみつき、長い間苦しく修行します。苦を味わうことで向上し、人の業を滅することができますが、法理に対する認識はとても遅いため、修練も非常にのろいものです。しかし、私たちが今日伝えだしたものは大法で、宇宙全体の法理です。このような大きな法を伝え出し、人を向上させているのですから、当然その向上もとても速いのです。しかもこの法理は人の一切の愚見、誤謬を除き、一切の人心を正し、一切の正しくない状態を正すことができます。ですからこの法理を学びさえすれば、読みさえすれば向上しているのです。だからこそ本を読んで、法を学ぶことがとても大切だと言っています。

本をいくらよく読んでも、これはただ考えの中で認識しただけで、煉る功とは別ではないかと言う人がいます。そこで煉功の話になりますが、煉功することによって気を煉り出し、その後に功を煉り出しますが、それは物質的なものです。しかし考えの中での認識はそれは精神的なもので、物質的なものとは何の関係もないように見えますが、皆さんに教えますが、本当のところ精神と物質は同一性のものです！ 修練においてそれは同一ではありませんか？ その次元の法理が分かった時、あなたは既にその次元にいるのではありませんか？ 『轉法輪』の中でこれについて既に話しましたので、詳しいことはここでは話しません。本を読んでください。ですから本を読むことは非常に重要なことです。これは私が毎回説法するときにもまず言及する問題です。皆さんは皆学習者であり、皆向上し真に圓滿成就したいのでここに来て法を勉強しています。皆さんを圓滿成就させ、向上させる最大の鍵であるのは、この本『轉法輪』です。くれぐれも多く本を読んでください。

何日か前にある学習者がわたしにこう言いました。「わたしはすでに二百回以上も読みましたが、どうしても手放せません。まだ読みつづけています」 このことはと

りもなおさずその中には読めば読むほど多くのものが見えたからです。あなたが異なる次元にいる時、その本を読むと同じ一行の文字から異なった状況の下で、あるいは何回目かの読書によってその一行の文字に対する認識がまったく変わった、というのです。前に読んだときのその一行はこういう意味だったけれど、向上してから見るとその同じ行の文字の言っていることが違ってきて、より深い意味が現れて来るのです。これはいつまでもこのような現れがあるはずです。

皆さんはご存知と思いますが、わたしがこの法を伝えたのは病気治療や健康保持のためだけではなく、わたしがあなたの身体を浄化し、無病状態に到達させ、それから絶えずあなたの次元を向上させ、圓滿成就させようとしているのです。もしそれほどの高い次元での法で指導しなければ、あなたは高い次元でどうやって修煉するか知るよしもなく、その次元の法理の内涵をも分からず、向上できないのです。ですから必ずこの本を読み、本を読むとともに皆さんの境地を向上させ、考えと認識を昇華させるのです。常人の言い方で言えばわたし達はより良い人になるのですが、それだけではありません。修煉で丈夫な身体を得、ちょっとした機能を得るだけではなく、圓滿成就し、より高い境地へ到達しなければならないからです。

皆さんがその境地に到達しようと思ってもその境地での法理を知らなければ、どうやって向上できるのでしょうか？ あなた方がそれほどの高い境地に到達するには、本当の修煉を通して人の各種の執着を放下しなければなりません。それは、一つ一つの鍵、一つ一つの門のようにあなたの道を遮っています。ですからあなたがこの法理を理解したと同時に、普段いかなる常人社会の環境の中で、よりよく行動すべきです。少なくとも皆さんは修煉者としての振る舞いをし、そういった高い境地、高い基準に到達すべきです。言い換えれば、どこであつても人々がみなあなたを良い人だと言えるでしょう。そうすれば皆さんの次元が高まり、思想の境地も昇華します。とすればあなた方の功も修煉すればするほど高まるのではありませんか？ これがなぜ長きにわたって気功を修めてもいつまでも向上しない人がおり、いろいろな方法で修煉しても向上せず、甚だしき場合にはまだ病があると言うことの原因です。これでは無駄に修煉したというのではありませんか？

修煉しても向上しない本当の原因は指導する法理がないからです。そこでわたしが皆さんに伝えたこの法は完全に整っており、系統的で本当に圓滿成就に至ることのできる、最も素晴らしい法です。ですからこれほど多くの人々がそれを大切にしているのです。現在報道されているところによると一億人もいます。どうしてこれほど多くの人がいるのでしょうか？ 皆さんもご存知の通り、ああいった中国社会にあつて特に

ある程度の年配の方は多くの社会運動を経験しており、特に文化大革命を経験した人たちは信仰を持ったこともあり、盲目的な崇拜で痛手を負っており、教訓があったのです。あれこれの社会運動を味わった人たちが、何かを盲目的に信じてしまうことなどあり得るでしょうか？ 絶対にありえません！ ではなぜこれほど多くの知識水準の高い人やあれほどしっかりした考えを持っている人がこの法を学んでいるのでしょうか？ それはつまりこの法が本当に人に責任を持つものであり、伝え出された道理は法理であり、理を持って人を納得させているからです。

ニュージーランドというところでも多くの学習者が法を学んでいます、わたくし李洪志はここに来たことなど一度もありませんし、あなた方にこうしなさい、ああしなさいと見張っていることなどしていません。そうでしょうか？ なぜ皆さんがこれほど堅い決意を持って修煉することができるのでしょうか？ それはあなた方がこの法理が良いものであることを知っているからです。人が生きている目的とは何でしょうか？ 人は一生の中で本当に自分に対して責任を持つべきではないでしょうか？ これこそ人生の最大の課題です。

わたしが今まで話したことは主に皆さんに法を学ぶことを重視し、何よりも法を学ぶことを大切にしたいということです。過去、道を求めて、修煉したいと思ってあちこちを訪ね回る人がいましたが、修煉が向上しませんでした。道を得ることができないということは、その動作を得られないのではなく、法を得られないということです。誰も正しい法理を説かないからです。それは宇宙のこれほどの大法である以上、皆さん考えてみて下さい。宇宙の法は、異なる次元の生命に異なる次元の生存環境、及び生命存在の方式を創り出したのです。即ちそれは宇宙の成り立ちの根本であり、一切の生命、一切の物質はそこから造られたのです。過去には皆さんも知っての通り、ああいった小法、小道、小理、小さな修煉方式は、この宇宙大法の鳳毛麟角にしか過ぎないではありませんか？ しかも最低の次元の中で人に現れることの出来るものに過ぎません。しかし今日あなた方が得たものは宇宙の大法であり、今まで知り得なかった真理であり、これこそ歴史上かつて誰も説くことのなかった真理なのです！

ここに座っている人は皆さんご存知と思いますが、まだ入門したばかり、或いはまだ入門もしておらず、学んだこともない人はわたしの話を聞いて大げさではないかと思うかもしれませんがね？ しかし、あなたが順序立てて本を読んでいけば、わたしが何を話しているかが分かってきます。如何なる形式の管理もありませんから学びたいければ学び、学びたくなければ学ばなくていいのです。誰もかまいません。しかしもしあなたが学ぼうとするのであれば、わたしはあなたに対して責任を負うことになり、

しかもあなたに対する責任を果たす方式は常人の中には現れないやり方です。このようなことです。

ここまで話してきたことは皆さんが法を学ぶことを重視すべきだということです。これから最近社会に現れた幾つかの状況についてお話します。特に中国において、一部の学習者が中南海に行って国家指導者に問題の実情を訴えようとしたことが、わたしは皆さんにこの問題についてお話します。目下のところ香港の新聞で書かれていることは出鱈目で、その他の国の中国語新聞は香港の報道を引用しています。世界中で知られているとおり、香港には600万人しかいないのにとっても多くの新聞や刊行物があり、新奇をてらうニュースで金もうけすることばかりで長きにわたってニュース報道が無責任になっているという現象があります。勝手に適当なでっちあげを行い、想像にまかせて書きまくって報道するという有様です。ですから世界で最も厳粛でない新聞が香港の中国語新聞であり、伝聞憶測までも正式なニュースとして報道してしまうのです。

ここで皆さんにわたしの見方をお話します。わたし達の学習者が中南海で国家指導者へ実情を訴えに行ったときに、デモもなければ、坐りこみもありませんでした。坐りこみなどはしていませんでした。坐っていた人はいましたが、それは煉功していたのです。スローガンを叫ぶこともなく、スローガンを掲げることもなく、激しい行動も、過激な言葉もなく、全て善念にもとづいて、国家指導者に対してわたしたちは本当の考えを伝えようとしただけで、公安部門がうわさで聞いたようなことではありません。中南海に行ったらどうこうと言う人もいます。中南海と言うのは人民政府の所在地ではないのですか？そこへ国民が行ってはいけないのですか？学習者達は何をしに行ったのでしょうか？政府に反対しに行ったのでしょうか？国家指導者に実情を訴えることは国家指導者に民をもって主とすることを求めることではありませんか？なぜ組織うんぬんというのでしょうか？組織的に政府を支持するのは政府が喜ぶべきではありませんか？

当然のことですが、皆さん考えてみてください。なぜそれほど大勢の人が行ったのでしょうか？実際のところわたしはとても少なかったと思います！（拍手）わたしはここで皆さんに行きなさいと扇動しているではありません。ではどういうことを言いたいのでしょうか？この大法を学んでいる人は一億人もいます。考えてみてください。この数からいうと相対的にとても少ないではありませんか？なぜかという、学んでいる人が多いからです。つまりこういうことではありませんか？では皆さんがそこへ行く大義名分は何だったのでしょうか？皆さんもご存知の通り、

天津警察がわたし達学習者をとらえ、学習者を殴り、邪教だと言いました。皆さんは良い人になることを学んでいます。もしもわたし達が本当に悪人であれば、邪教だと言われても何を言われても気にしません。そうではありませんか？ しかし皆さんは確かに本当に良い人になろうとしているのに邪であると言われれば、皆さんの心を傷つけてしまうのではありませんか？ そこで筋が通らず、訴えても分かってもらえなかったため、わたし達は中央指導者に訴えに行かなければなりません。やり方において何も間違っていない！（拍手） というのは、わたし達は運動を起こそうというのではなく、ましてや政府を攻撃しようということでもなく、ただ公安部門のやり方が正しくないと話しているだけです。ですからこれには何の問題もありません。

一部の報道記者はかなり無責任でちょっとした生臭いにおいだけから、でっちあげを行なっています。そこでわたし達はその人達に乗ずるすきを与えてはいけません。ですからわたしの態度は非常にはっきりしています。わたし達は政府に反対しているのではなく、デモ行進などもしませんし、過激なことはせず、実情を訴えに行くだけです。わたしも行きたい、あなたも行きたいと思えば、人は多くなります。一億人のなかで一万人ばかりが行ったのですが、端数にも及びませんでした。とても少ないではありませんか？ 仮にそういったことを大々的にやり、さらに過激にするとすれば一万人どころではなく、とても多くなるでしょう。実情を訴える人が多くなったからといって、それは正しくないというのでしょうか？ 国家指導者に実情を訴えるのは全ての国民の義務であり、職責であり、権利です。これが間違っているというのでしょうか？ 間違っていないです。わたし達は政府に反対しませんし、政治に干渉しませんし、同時にわたし達も自ら国家の法律を守っています。この通りではありませんか？ どこにいてもわたし達は全て良い人です。この問題に関してわたしが考えるのはいつもこういったことだと思います。

皆さんもご存知の通り、わたし達は修煉しています。修煉である以上、修煉の道の中には偶然なことはありません。わたしはいつもこのようなことを話しています。反対と支持は同時に存在しており、信と不信は同時に存在し、良い人と悪い人も同時に存在し、正と邪も同時に存在しています。これがまさに人類であり、また相生相克の道理です。反対する人がいるということは悪いことだとは言えません。皆さんもご承知のとおり、魔がなければ皆さんの修煉もできません。その人があなたに反対する時、その反対の中であなたの心を見、あなたがしっかりしているかどうか、修煉することができるかどうかを見極めているのではありませんか。修煉というのは厳粛なことから一人の平凡な人が圓滿成就という境地に到達するという事は、考えてもみてください。本当の意味の試練がなければ、ものの数にも入らないのではありません

か？ ですからこういった試練にはこういった出来事があるのです。

人が悪事を働くとき、わたし達を助けるためにやっているとは言えません。その人は間違いなく悪事を働いているのです。しかしわたし達はかえってそういった悪事そのものを利用して修煉者に機会を提供しているのです。誰かに反対されたら煉功を続けますか？ 誰かが良くないと言ったら自分ではどう認識するのですか？ これこそ人の心を見るということではありませんか？ ですから修煉はとても厳粛なことで、この点についてははっきりと分かっている欲しいのです。何一つ偶然なことはありません。

このことがあってから皆さんはこう思い至りませんでしたか？ 全世界が大法の現れを知りました！（拍手）これは皆さん方がやることのできる洪法の範囲より、大きくとても広範囲に及びました。（拍手）同時に国内の学習者にとっては非常に重大な試練もあります。もちろんわたしは修煉者に向かって話をしているのですが、常人社会では常人社会としての表現形式です。わたしの態度については先ほど既にお話しました。つまりそういった態度です。わたし達は国家指導者、政府、法律などのすべてについて一切干渉しませんし、それを壊すこともしませんでした。皆良い人になろうとしているのですから、実情を訴えに行っただけなのです。

この問題について話はこのくらいにしておきましょう。というのもこの法会は皆で体験を交流し、その中から自分を見て、自分の足りないところを探し、皆さんが本当に向上出来るようにするためのものだからです。今日は一日中体験交流をしましょう。明日の午前中、わたしが皆さんの質問に答えます。この会は一日半にわたって行われます。皆さんがその間、ちゃんと座って、人の話を聞くときに静かにしていただけるように望みます。人を大切にすることは自分を大切にすることなのです。法会というのは神聖なもので、あなた方の修煉しているのは宇宙大法なのです！ わたしの話はこれくらいにしておきます（拍手）

昨日の法会でずっと隣の部屋で皆さんの発表を聞いていましたが、この法会はとてもうまくいったと思います。法会の果たすべき役割を果して、法会を通じて皆さんが利益を受けて本当に向上できると思います。とてもよかったことです。今日の午前中は皆さんの質問に答えることにしましょう。これはわたし達の法会の慣例となっています。ですから皆さんは何か質問があれば提出してください。法会の時間の許す限り皆さんにお答えしたいと思います。

ただし、常人の中のことは提出しないでください。あるいは関を越えている時、まだ悟りが至らない問題があり、それを提出して、わたしに聞きたいと思っていますが、その関はあなたが越えるためにあるものですから、解答してあげたらあなたは悟らなくてもよいということになるのではありませんか？ わたし達の修煉に関わる事柄を主にして、修煉と関わりのないことはできるだけ避けてください。提出しなければもっとよいのです。では始めましょう。

弟子：今回はニュージーランドでの初めての法会ですが、私たちは皆新しい学習者ですので、大法について多くのお話をして頂き、私たちの修煉を指導して頂きたいと思います。

師：質問に答えることは実は皆さんに法を説いているのです。出された多くの質問は私たちの修煉と関係しているのです、これらのことについて、私はできるだけ明白に説明します。

弟子：私は賃貸アパートに住んでいます。別の部屋に住んでいる人が気功や宗教の本を多く持っています。本人にも憑き物があるかもしれませんが、私に影響するのでしょうか？

師：このように話しましょう。皆さんが修煉しているのは大法であり、正真正銘の修煉です。他の気功は、皆さんの正法修煉のエネルギーに抑えられるだけで、皆さんを邪魔することはできません。ただ一つ、もし自分をうまく制御できず、仲間に入ってしまう、どんな本も読んで、どんなものも練習するならば、厄介なことを招きかねません。もし心性を守ることができれば、どんな環境においても影響されることはありません。実は、多くの方がよくないものを煉っていることを皆さんは分かっていますが、しかし考えたことはないかもしれませんが、今日の人類の全ての環境は皆清浄ではありません。ですから、修煉者はどこにいても、自分の心を守り、正々堂々と修煉しさえすれば、このようなことを心配しなくてもいいのです。何の問題もありません。心配そのものも執着ですので、執着したらそれを取り除かなければならず、人に邪魔されたように見えますが、本当は自分の心による問題かもしれません。

弟子：先生がお書きになった詩の中の「助師世間行」、「協吾轉法輪」の行についてですが、それは弟子たち、或いは佛道神が先生を手伝うのでしょうか？

師：両方ともあります。皆さん考えてください。当初私は法を伝えたときに、講習会を開いたのですが、実はそれによって大法のエリートを養成していました。今は全部皆さんが動いてやっています。常人の中で大法を実証しています。新しい学習者も古い学習者になり、皆法を広げ、もっと多くの人に法を得させています。皆さんの修煉、

大法に対する堅実な気持ちは磐石のごとく、大法の安定に大いに力を発揮しました。同時に常人社会においても、もっと多くの人に法を得させていますので、実質上師を手伝っています。勿論、これらは皆無意識のうちにやり遂げたことですし、皆さんの修煉に必然的なことでもあります。こういうことです。勿論別の空間ではその状態がありますが、こういうことです。

弟子：先生が「誰言智慧大、情中舞乾坤」をお書きになりましたが、どう理解すればいいのでしょうか？

師：歴史上、多くの有名な人、人々に聖者と言われた人、常人に傑出していると思われた人物、現在声望のある人たちも含めて、彼らは全て常人で、情から抜け出していないのです。ちょっとした業績があれば、周りの人は偉い、賢い、頭がいいとか言いますが、私から見れば、皆、情の中で乾坤を動かしているだけです。こういう意味です。皆情から抜け出しておらず、常人の環境にいるので、まだ常人です。

弟子：子どもは二歳ですが、彼は先生の功法教授のビデオが好きです。しかし、子どものお父さんは非常に嫌がります。

師：大法を修煉し、返本帰真することが、今日人間がこの世にいる本当の目的です。私が皆さんに教えたのは紛れもなく正しいものです。今日の世界にいる全ての人は実は人間になるために来たものではありませんが、皆法を得に来ているとも限りません。ですから、常人の中で生きることは目的ではありませんが、先ほども言ったように皆法を得に来ているとも限りません。しかし皆法のために来ているのです。常人の中で生きることは唯一の目的ではありませんが、如何に元に帰るかは人の生命、生きることの根本的な目的です。このようなことをしたら大変結構ではありませんか？ お父さんが修煉させてくれないのは多分あなたに関門を乗り越えさせているのかもしれませんが、別の要因があって本当に修煉させてくれないのかもしれませんが、このことにどう対処したらいいのでしょうか？ 自分が正しいと思うやり方ですればいいのです。自分で判断してください。

弟子：人間にはそれぞれの個性がありますが、高い次元まで修煉すればするほど、個性はなくなるのでしょうか？

師：人の個性は違いますが、それはあなたの本質的な個性ではありません。人の個性の多くは取り除きたくない執着の現れです。本質的な性格は我々の修煉に妨げをもたらすことはありません。なぜかというと、多くの人には淵源のある本質的な特徴があるからです。これは即ち生命のそれぞれの特徴です。てきぱきと動く人もいれば、のんびりしている人もいます。もちろん、後天的に形成した癖などはこの限りではあり

ません。てきぱきしていても、のんびりしていても、修煉の妨げにはなりません。

しかし、法を勉強することだけは、皆さんが精進しなければなりません。人生の時間は本当に限られているからです。人間は常人社会で自らの生命が永遠に保有できるものを得ようとすれば、この世では修煉のほかありません。ほかの如何なることをしても得られません。どんなにお金があっても、どんなに偉くなっても、生活は如何に裕福であっても、この世を去るときに何も持っていくことはできません。この世に来る時は何も持ってくることができなければ、去る時にも何も持っていくことができません。ただ唯一持っていくことができるのは修煉によって得たものです。修煉によって得たものは直接人の真体にあるからです。最も貴重なもので、最も得がたいものなので、最も大事にすることに値するものです。修煉によって得たものは人間の永遠の利得を決め、異なる次元で自らの生存方式、生存環境を決めるのです。人間がいるこのところは非常に良くありませんが、ここで修煉することができます。天国の世界は非常に良いのですが、修煉は難しくなります。人間がいるこの場所は苦しみが多いからこそ、修煉できるのです。

弟子：性格がもともと良い人は修めやすいのでしょうか？ 怒りっぽい人は修めにくいのでしょうか？

師：先ほど言いましたが、人にはその生命の特徴があります。しかし、怒るということは、人間の先天的なものではありません。皆さんに教えますが、人が怒っている時、紛れもなくそれは魔性です。なぜでしょうか？ 「私はいいことをするために、人を向上させようと、怒ったのです。人に仕事を真面目にさせるために怒ったのです」と思う人もいるかもしれません。これも魔性です。換言すれば、悪を持って悪を治そうとしています。あなたは魔性を利用して他人に良いことをさせようとしているのです。もしあなたは善の心をもって対処すれば、善の心からしっかりすべきだと勧めれば、その人はきっと感動させられ、あなたに強制的にされたからではなく、本心からきちんと物事を扱うと思います。そうすると、物事もより良く扱われると思います。ですから、修煉の過程で皆さんは徐々にかんしゃくの癖を取り除くべきです。怒らないということは非常に難しいと皆さんは思いますが、本当は難しくないので。理性をもって対処すれば、多くの物事はより良く解決されます。ですから、怒ってはいけません。

人に向かって怒っている時、それも人に徳をあげていることです。あなたの怒りは本当に相手の業力を減することができるのです。これも確かなことです。相手にとってあなたは魔になったからです。生活においても修煉においても、相手の業力を減す

ることができます。しかし、あなたが得たのは彼から転化されてきた業力なのです。ですから、修煉者として、このようなことをしないほうがいいと思います。自分で修め、自分で自分の業力を転化すべきです。

弟子：私は修煉において多くの難や厄介なことにあったため、自己を解脱することで精一杯です。法を広げることには手を伸ばせなかったのですが、羅漢までしかならないのでしょうか？

師：そうではありません。それは佛教の説です。大法の学習者は皆それぞれの修煉状態があります。誰でも法を広げなければならないということではありません。何の決まりもありません。実は法を広げたいという気持ちがあって、普段周りの人に紹介したり、皆まとまって一緒に何かをしたりすることは学習者の自分の修煉における一種の修煉の現れで、とても素晴らしいことです。今日開かれた法会のように、自分の体験を語るができる人もいれば、修煉していても体験を話せない人もいます。つまり人それぞれの修煉状態の違いと関係しているので、問題にすることはありません。

弟子：どのように人為的に難を加えるということを理解すればいいのでしょうか？ もしこのような難関も乗り越えたら、修煉の中の関門を乗り越えたことになりませんか？

師：皆さんに教えますが、人為的に加えた難はあなたが乗り越えられるかもしれませんが。しかし教えますが、それはただ常人生活の中の難に過ぎません。なぜでしょうか？それはあなたの修煉の過程に按排されたものではないからです。一步一步全て非常に系統的に按排されているのです。どの執着を取り除くべきか、この難を乗り越えて向上して来た時、身体の中の部分を充実させるか、どの部分の問題を解決するのか、何を修煉するのか、境地がどこにあるのか、などなど全て按排され、非常に系統的なのです。ですから、あなたが予定外に何かを加えたら、系統的に按排してあげた過程を乱したことになります。

したがって、皆さんはわざわざ何かの苦を嘗め、人為的に何かをしようとしなくてください。自然に修煉してください。何かの関と遭遇して、うまく乗り越えられれば、それは見事なことです。何かのトラブルに遭った時、自分を探し、自分の心を探すことができれば、それは即ち修煉です。山の奥で修煉する人がいると皆さんは知っていますが、実はここの山にもいます。皆さんは知らないだけなのです。世界の多くの高山にも修煉の人がいます。彼らは何千年も修煉していますが、次元の向上は非常にのろいものです。彼らはただ苦しみに耐えて修煉しているのです。苦は人に修煉させ、業力を滅することができます。しかし、法理に則って修めていなければ、非常にのろ

いものです。彼は高い境地、次元の法理を知らないので、その境地まで昇華できないからです。

皆さんはどうしてこんなに速く修めることができるのでしょうか？ 現在の状況では皆さんはまだ自分の向上の速さを想像できません。私は法を伝え出してから僅か数年しかないので、多くの方は既に圓滿成就の基準に達したのです。これはとても不思議なことです。大法を勉強しているからです。宇宙の大法が人を精練するのは非常に簡単なことです。この例をあげたことがあると思いますが、「一窯の熔鋼に一つの木屑が落ちたら、瞬間に見えなくなります」 人間はその木屑、宇宙大法は熔鉄のようなものです。人を精練するのは非常に易しいことです。しかし、私はこのようなことをしてはいけません。あなた自身に修煉させます。このようなことをしたら、あなたを作り直すことになります。あなたの元々の姿かたちと特徴があるかもしれませんが、あなたではなくなるかもしれません。ですから、皆さんが真に修煉し、自らを向上させ、解脱できるようにさせます。

弟子：時々煉功にあわせて功理を口にしてもいいのでしょうか？

師：このようなことをしないでください。煉功は煉功です。煉功は静に入らなければならないと要求しているからです。できるだけ何も考えないようにしてください。法の勉強は法の勉強です。必ず分けて行わなければなりません。煉功を始める前の四句の言葉も、煉功の前に読み、煉功中は読まないでください。そうすると、静に入りやすくなります。

弟子：新しい学習者は功法の道理を知る必要がありますが、古い学習者の動作も正しくない場合があります。

師：正しくなければ、正しくさせればいいのです。法に対して理解できないことでしたら、法を勉強させます。煉功とは別々にします。必ず法を勉強しない人に勉強させてください。でないと、修煉は台無しになります。皆さんに教えますが、最も惜しいことはなんのでしょうか？ 既に法と接したのに、すれ違ってしまい、あげても受け取らない人です。これこそ生命にとって永遠に、永遠に惜しいことです！ 永遠にどんなに後悔するか計り知れません！ 多くの生命は元々法を得に来たはずですが、長い年月の中で、自分の正念を無くした生命もあります。だんだん何のためにこの世に来たのか分からなくなり、迷いやすくなりました。迷ってしまったら、本当に……。幸い、法理はこの全てを解決できます。一番恐ろしいのは法を読まない、勉強しないことです。私はあなたの全てを導き出し悟らせることができ、あなたの本性に覆い被った全てを片付けることができます。

弟子：座禅する時に、煉功の音楽を暗唱してもいいでしょうか？

師：暗唱しないでください。どうして煉功の時、音楽を聴かなければいけないのでしょうか？ 今日の人々の修煉は今まで如何なる状態下での修煉と違うからです。皆さんには仕事や、忙しい仕事と勉強があるため、頭がなかなか静かにならないのです。音楽を聞かせる目的はあなたを静めるためです。音楽を聴くという一念で、他のことを考えさせないようにしています。つまり、一念を万念に代えているのです。しかし、音楽を聴くそのこと自体も人に執着を生じさせやすいのです。幸いなことに、我々の音楽にエネルギーを加えており、大法の内涵が存在しているので、音楽も修煉の中であなたに受益させ、向上させることができる一種の手段になりました。大法の音楽にはそういう役割があります。音楽の表面のメロディーに気を取られないでください。つまり執着しないでください。

弟子：回転している卍が見えましたが、それは師父が授けてくださった印なのでしょうか？

師：一般には印は額のところに授けます。他の状態下で見たのなら、それはただ卍という佛家の印に過ぎません。

弟子：釈迦牟尼佛は人を済度するために多くの苦を嘗めましたが、彼の次元はまだ如来なののでしょうか？

師：釈迦牟尼佛が如来であることは間違いありません。しかし、彼がどの次元にいるかは誰も言わなかったのです。異なる次元の佛、法王も皆如来と呼ばれています。誰も言わなかったし、人に知られることも許されません。

弟子：どうして道家も阿弥陀佛と観音菩薩を念じるのでしょうか？

師：系統的な道教は明の時代になってから現れてきました。以前の道は組織がありませんでした。ただ先生が何人かの弟子を仕込んで修煉しているだけでした。何人か人がいますが、完備した宗教のような形式を形成しなかったのです。明の時代以降、その形式はほぼ寺院などの宗教形式と一致しました。道は清修、独修、静かに修煉するものなので、衆生を済度するようなことはありません。宗教を形成したその目的は何でしょうか？ 一つは人を修煉によって圓滿成就させることです。もう一つは社会において宗教は人を善に向かわせる働きがあるからです。道教もこのようなことをし始めたのです。人に法事をやってあげたり、人を済度するようなこともしようとしていたりしました。たくさんの信者が現れてきたので、人を済度しようとしたのです。人を済度するなら、一人、二人だけであれば、それは人を済度するとは言えず、弟子を仕込

むと言います。ですから、道教も佛、菩薩、或いは羅漢などのような名称を使い始めました。これが即ち私の言った一般の道であり、大道ではありません。これは近代になって出現したものです。

弟子：私がほかの気功を練習したから入ってきた憑き物は息子の体にも入ったのです。息子に気功を教えたら、彼の憑き物も私は取ってあげることになるのでしょうか？

師：ある人がもしたただ近づいただけで、真にこの門に入らずに、通っただけで、或いは門外でずっと迷っているのでしたら、それは最も悲しいことです！ここで話した全てはどのように一人の修煉者になるかを教えています。執着しているこれらのものを放棄できなければ、永遠に一人の修煉者になれないのです。ただ苦痛の中であなたを辛く感じさせるものに執着するだけです。真に修煉する弟子に私はこれらのことを全て片付けなければならぬのです。しかし、あなたは必ず一人の修煉者にならなければなりません。これからは、先ほど私が話した全て片付けてあげるといふようなことも忘れなければなりません。師父が何かしてくれるのではないかという考えもあってはいけません。何もしてあげません。法を勉強し、大法の中で自分を精練します。息子さんのことに至っては、もう考えないでください。一生執着しても解決できません。執着しなくなったら、私はきちんと片付けてあげます。

修煉が圓滿した人にまだこれほどのトラブルがあるのでしょうか？それではいけません。あなたが生々世々において結んだ怨だけではなく、結んだ縁も処理してあげます。一人の人が修煉によって圓滿成就するという事は容易なことではありません。世々生々のつけ、世々生々に償いたい怨などは本当に多いのです。全部解決してあげなければなりません。本当に表裏が全てきれいになった覚者になって始めて、圓滿成就できるのです。たくさんの未決のこと、多くの借り、怨などを償わなければ、どうやって圓滿成就するのでしょうか？しかし、これらのことはあなたは知りませんし、解決もできません。あなたは苦痛の中で一生執着しても解決できません。もう大法と出合ったので、もう構わないでください。安心して、まだ生きており、まだ正念があるのではありませんか？ただひたすら大法の中で修めます。もし本当にほかの部分を守らなくなっても、少なくとも正念を守ることができるでしょう！まして将来あなたは圓滿成就する人なので、これらのことを片付けてあげないわけにもいかないのです。しかし、これらのことにこれほど強く執着していれば、私にはどうしようもありません。如何なる念も執着です。執着は一日、二日でできたものではありません。長い間、それほど執着して、恐れており、どうしてまだ修煉者といえるのでしょうか？厳しく言ったほうがあなたのためになります。

弟子：思想業によってできた考えがありますが、これは業力を転化するチャンスだとは分かっていますが、どうすればいいのでしょうか？

師：この心を放下し、正々堂々と修煉します。こうします！ 在席の皆さんは今その心の中に放下できないのがあっても今放下できると思います、今は放下できると思います。この会場を出てから、その事に対する考えは絶対に変わります。人の修煉はつまり最大限に人の執着心を取り除く過程です。どうしてこのことをこれほど重く見なければならぬのでしょうか？ あなたの頭で考えている、執着している、大事にしていることは即ち一つの壁です。常人から離れさせない壁です。全ての念も次第に常人から離れ、神の状態になってほしいのです。しかし、あなたの全ての念は常人から離れられず、常人と結びついています。つまり船のように、出帆しようとしても、ロープは波止場に縛りつけられています。たくさん縛りついています。解かなければ、出発できません。

弟子：長期間、病業を減している状態にいる学習者がいますが、つまりその次元に停滞し、進歩できなかったということでしょうか？

師：確かに一つの次元に停滞する時間が長すぎます。つまり執着している時間が長いということです。学習者の中に二通りあります。自分の病気に執着する時間が長すぎる人がいます。ご存知のように、修煉はただ単に一つの目的を達成するものではありません。向上すると同時に、業力を減さなければなりません。業力に執着していて、進歩がなく、心性が向上できなければ、同様に関門を乗り越えることができず、長引いてしまいます。つまり、修煉して向上できず、同じ状態に長く滞っています。本当に精進して、自らを向上させていけば、この関門はとっくに乗り越えたはずなのです。長く停滞していても、まだ悟らず、新たに病気に対して執着し始めたから、あなたの大法修煉に対する堅信を揺るがしています。これはつまり一難を乗り越えられず、また一難、更に一難が次から次へとやってきたので、関門が大きくなったのです。修煉は複雑なことで、もちろん業力が大きいという原因も考えられます。しかし、多くの原因は次元の向上が遅すぎたため、この状態が長引いてしまったからです。

弟子：先生が一部の学習者と顔合わせをした時のビデオですが、皆先生を囲んで報告したり、質問したりしていましたが、特別の場面での先生の説法のビデオを流すのは適当でしょうか？

師：良くない！ 非常に良くない！ 個別に学習者に会う時、誰に対しても録音録画を認めていませんが、どうしてもテープレコーダをポケットに隠している人がいます。

私を騙しているようですが、本当は自分を騙しています。あなたの一切の修煉、一切の向上は自らを修煉するところにあります。全ての隠し事は子供の遊びのようなものです。個別の状況に対して話した問題は普遍性がありません。普遍性がなければ、公開したら他の人を邪魔するのではないのでしょうか？ 皆さんに教えますが、この法理は相当大きなものです。私はマクロのレベル、全体から話しています。具体的なことは触れていません。話してしまうと皆さんは修煉しにくくなります。あなたは大法の中で修煉している一員なので、大法に責任を持つということは即ち自分自身に責任を持つということです。この大法は少しでもずれてしまえば、あなたは元のところに帰ることができません。法が正しくなければ、あなたを圓滿成就させることができません。

弟子：私は内に向けて探すことができ、普段良くない心を取り除こうと努力しています。時に他の人を指摘したら、怒られました。これは業を造ることでしょうか？

師：これは業を造ることではありません。自分に執着心があることに気づくことができるのは非常にいいことです。しかし小心ものにならないでください。

他の人を指摘することは、善意をもって忠告することはすべきことです。皆さんの修煉は他人のためにもなるのではありませんか？ まず考えるのは他の人のことです。他の人に欠点があるのに気づいたら、彼も修煉しているのに、どうして教えないのでしょうか。彼がどう対処するか構わず、指摘すべき時は指摘してください。皆さんの心は善だからです。師父はこれを知っています。他の人に見せる必要はありません。本人が受け入れるかどうかということですが、受け入れても受け入れなくても、彼の取り除かれるべき心に当たったから、彼にとっては一つの促しだと思います。本人がその時悟らなくても後になって悟るようになるかもしれません。後になって悟らなくても、他の人の口を利用して注意します。それでも悟らなかつたら、何かにぶつかるようにさせます。(笑い) 冗談です！ 実は修煉というのは人の執着心を取り除くことです。しかしどのように修煉するかということを知りたければ、必ず『轉法輪』を読まなければなりません。繰り返して読みます。執着に気づいても取り除きたくないのはその人の問題です。自分がそれに気づくことができず、他の人から指摘され、いい気がしなければ、『轉法輪』を読んでください。何の目的も抱かずに読んでください。気のままに『轉法輪』を手にとって、中国語版でも、英語版でも、或いは他の言語の『轉法輪』でも、随意に開いたら、必ずあなたの問題を説いているところに当たります。しかし試してはいけません。試したいという心は非常によくないものです。法に対して不謹慎なことです。ですから、試してやったときは利かなくなります。

弟子：私は二年近く法を勉強し、心性も向上していますが、体に大きな難を遭うことはありませんでした。先生はまだ私を見守っておられるのでしょうか？

師：二年も修煉していますが、皆さん考えてください。もし見守ってあげなければ、あなたはとっくに大法から離れてしまったのです。他の人と見比べないでください。他の人は大きな難に遭って、車に轢かれても、車が壊れましたが、本人には別状がありませんでした。私もこのことに遭うべきだなどと考えないでください。皆さんの修煉状態はそれぞれ違います。私は多分あなたにそのように段取りしておらず、他の方法であなたの業を減しているかもしれません。もし皆同じだったら、修煉する必要もなくなります。他の人を見れば分かります。あなたに起こったことは全て他の人と同じのようであれば、私もこういう風に対応します。これでは修煉ではなくなります。ですから、それぞれの状況は千差万別なのです。

弟子：子供は先生の説法テープを聞きなれていますので、寝る前にも聞かせていますが、大きくなったら、法を聞いたら眠くなることはありませんか？

師：そんなことはありません！ よくやっています。子供が聞いたがっていることは彼の先天の本性が分かっているからです。子供が三歳を過ぎると、先天のものがだんだんと少なくなります。覆い被せられてしまいます。三歳から六歳までの子供はまだ純粋です。六歳以降になると、観念が形成されやすくなります。

弟子：修煉の機縁はどのように結ばれたのでしょうか？

師：各次元で結んだものもありますし、人間世界で結んだものもあります。

弟子：私たちの地区では大法の資料は社会でまだ大量に発行されていませんが、何か別の原因があるのでしょうか？

師：皆さんは修煉がよくできています。形式上ほぼ大法の形式に則って修煉しています。これは問題ないのです。資料のことは、それがあある地区もあるし、ない地区もあります。中国大陸では何十人が一冊の本を読んでいるところもあります。非常に足りないのです。特に農村はなおさらです。本は本当に足りないのです。これらの問題は解決されると思います。

弟子：どのようにすれば、よりよく法に基づいて法を認識することができるのでしょうか？

師：法に基づいて法を認識することができないことの最大の特徴は常人の観念で法を量り、常人の言い方で法のことを話すことです。局外者のようです。本当に法理に従

って法を認識することができれば、話したことも法であり、行動も大法弟子としての行為です。これこそ精進して修煉していることです。話したことも違ってきます。どのように精進している時に更に精進するかということについて語っています。法に従って法を認識することのできない人はただ感性から認識しているか、或いは常人のように大法がいいものだという気持ちで常人の言葉で大法のことを話します。往々にしてこのようなことです。差はとても大きいです。

弟子：最近元気がなく、何をしてもやる気がないのですが、これは惰性でしょうか？

師：精進しなさい！ 元気になるなさい！ 皆さんに教えますが、これも一種の魔性の現れです。これは思想業力によるものです。あなたをこのような状態に陥らせ、前進させないようにしています。法理に従って法を認識し、真に精進すれば、この関を乗り越えることができます。

弟子：三歳の孫は先生の写真と法輪図が好きで、「法輪は天地に回転する」、「圓滿成就はつまり家に帰ることです」などのことを話したりします。しかし、そのお父さんはいつも邪魔してきますが、私は直接に口を出すこともできません。

師：まず自分に原因を探してください。お父さんに理解してもらえなかったら、とりあえず彼の前でしないでください。お父さんは反対しているからです。皆さん考えてください。修煉は最も正しいことです。お父さんに理解してもらえないし、あなたもうまく説明できないので、後で子供に教えればいいのです。この子は普通の子供ではありません。わずか三歳です。これは常人が言える話ではありません。

弟子：常人の向上心は先生のおっしゃる執着心と似ているところがありますか？

師：宇宙の大法は異なる次元の生命が存在する環境を切り開き、異なる次元の生命を造成したのです。人間も最も低い次元の宇宙大法によって造成した環境であり、生命です。この次元では人間のために知りうる道理を造ったのです。大法と似ているところがあるということにいたっては、私はあなたの言い方に同意できません。人の向上心は人間にとってはいいことかもしれませんが、しかしそれは常人です。私はここで話しているのは修煉者です。修煉者はすべき仕事と勉強をきちんとやり遂げることができず、それに執着しません。

弟子：学校で一番を目指して頑張るのは執着心ですか？

師：このことについて既に明白に説きました。多くの子供は法をよく勉強しただけで

なく、学校での成績も一、二位です。このような子供は非常に多いのです。しかし、彼らは成績そのものに執着せず、大法の修煉を通じてどうすればいいかが分かり、勉強と大法の関係をうまく扱うことができます。学生であればよく勉強しなければならないからです。これは法に対する理解であり、どこにいても良い人であるべきです。学生なら勉強が良くなければいけないと分かったら、自然に成績が良くなります。しっかり勉強して、本業のやるべきことをすれば、必然的に良い学校に入り、大学に受かります。これは良い学校、良い成績、大学に執着して得られるものではありません。私はいつも言っているように、何かをする心、何かを得ようとする気持ちがあれば、往々にして逆の効果になります。そのことをきちんとすることだけを思えば、自然に得られるのです。

弟子：仕事に対して時間と精力を尽くして完璧を目指すのは執着心でしょうか？

師：もし仕事をいいかげんに、きちんとやり遂げられなければ、給料を貰った時にきつと落ち着かないと思います。修煉の人はどこにおいても良い人であるはずで、良い人になろうとして良い人をしているのではなく、あなたは修煉の人だから、すべてをしっかりとすべきです。このような関係です。

弟子：修煉して圓滿成就できないのではないかと心配しています。もし今世がだめだったら来世続けて修煉すると決心しました。

師：とても決意があるように見えますが、実はちっともありません。来世でまたこのような状態が現れてきたら、どうしますか？ また来世で続けます、ということでしょう。この機縁を逃さないほどの堅実な気持ちがあれば、今世できっとできます。

弟子：これからの人類世界には大法がないと今分かりました。つまり来世続けて修める必要もありません。この考えは正しいのでしょうか？

師：つまり今世で修煉してできず、来世また続けて修煉しても、もう法輪大法はないから、修煉する必要もないということでしょうか？ しかし、あなたはこの問題を出した以上、まだ修煉する気持ちがあるということです。精進してください。安心して真に修煉してください。まだ何か放棄できないでしょうか？ 宇宙に現れてきた全ては偶然ではありません。これほど大きな出来事が人類社会に現れましたが、それは偶然でしょうか？ 私は人類の未来のことを話してはいけません。皆それに執着して大法を学びに来るからです。それは即ち執着心を抱きながら学びに来ることです。法に対する理解の欠如が精進できない原因だと思います。この問題を解決する方法は多く本を読むことです。本を読んでも、せいぜいあなたの時間を使うだけで、あなたの筋

骨を労せしめ、あなたの心志を苦しめることもありません。本を多く読んで、問題を解決してから、また精進できるか、修めることができるかを見てみます。

弟子：香港の学習者から先生にご挨拶を申し上げます！

香港のマスコミや記者が先生及び法輪大法に対してでたらめな報道をしたことに対し非常に胸が痛みます。既にマスコミに誤った歪曲な報道を糾すよう公開状を出しました。シドニーとニュージーランドで先生の説法を聞いた後、皆さんは更に心を堅め、先生に従って法輪大法の修煉の道に前進し、真に修煉し、法を広げます。

師：ありがとうございます！（拍手）法輪大法は世界の全ての人に本を与え、中国十数億の人全てに本を与えてから、その人の置かれるべき位置を判断することはできません。人間には分かっている一面があり、分かっている面もあります。表面上分かっているなくても、実は分かっている一面があります。法輪大法の真善忍という文字が人に伝わった時に、その人に一念が生じるはずで、その時の念によってその人の運命、位置を定めます。どのように報道しても、どのようにやっても、昨日既に話したように世界の隅々のところまで法輪大法が伝わったのです。全ての人はこのことについて一念が生じるのです。ただで済むことではありません。これほど厳粛な大法ですが、皆さん考えてみてください。記者は何かを書けば、自分がやった全てに責任を持たなければなりません。これだけではなく、常人社会の全ての人、全ての生命は未来に自分がやった全てに必ず責任を持つことになります。これは絶対の真理です。しかも確かなことです。大法を攻撃することはただで済むことではありません。人間の命も大法によって作り出されたものだからです。これまで反対したら、その人はどこへ行くべきでしょうか？

弟子：『洪吟』を読んで、涙が絶えません。大変勉強になりました。これは修煉のもう一冊大変貴重な宝物です。

師：この本に書いたのは修煉のことと法に関係のあることです。ですから、皆さんが読めば皆さんの向上に役に立つと考え、出版しました。

弟子：北京で起こったことに対して忍をし、堅実に大法を修煉し続けるべきです。

師：自らを修煉することができれば、もちろん正しいのです。邪法と言われても気にかけないのなら、それはおかしいことです。学習者の全ての人皆大法の中で修煉しており、その貴重さが分かっています。大法を大切にすること自体も自分を大切にすることです。皆さんが大法を学ぶ過程に、いつも試練があります。夢の中の試練にし

ても、職場や実生活の中の関門にしても、小テストのように、しばらく勉強したら着実に身に付けたかどうか、しっかり勉強したかどうか試験で試してみます。しかし、皆さんに教えますが、最後になって大法で圓滿成就する時に試験があります。

弟子：世々にわたって伝わる病気の遺伝子を取り出したら、このことに関わり操作した者、またそれで生まれた子供にとって、この空間と別の空間において得と失の問題がありますか？

師：どう話したらいいのでしょうか。あなたの力は他の空間に及ぶことはできません。人間は生命の領域を絶えず探求していますが、分かったのは分子で構成した人類の最も表面的な身体の場合に過ぎません。生命を構成する最も本質的な原因は人間にとって永遠に分からないのです。人類の生命、生命が一体どういうものなのか調べようとしても、それは人類にとって永遠に、永遠に謎のままです。これは絶対人類に知らせることはありません。病気の遺伝子を取り出したら、人間が病気に罹らなくなるということにいたっては、そうではありません。人体が病に到る要素が存在しています。同時に多くの科学者も病気がこれらの病気の因子に起因するのではないと気づいたのです。ですから、人が病気から免れられるようにと思っても不可能です。

修煉の角度から言いますと、ある人はもし病気に罹ることがなければ、死後必ず地獄に落ちるのです。なぜでしょうか？ 人が業ばかり造ってそれを償わないと、業が多く溜まってしまうからです。ですから、人には病気があり、苦痛があり、日常生活の中で厄介なことにぶつかり、難しい関があり、苦しい時があります。これらの全ては人の業を滅しているのです。特に、病気に罹った時、業がより多く滅せられるのです。そうすれば、病気に罹ったことはいいことなのでしょうか？ もちろんそうではありません。悪事をしなければ、病気が少なくなります。そうしたら遺伝子などを取り出さなくてもいいのでしょうか？ 実は人間がもし何かをやろうすれば、やっても構いませんが、それは常人のことです。私はただ皆さんに一つの理を話ただけです。人間はどうしても何かを探求し、いわゆる発展を遂げたいと思ひ、変異した心がどうしても存在しているので、思うようにすればいいのです。現在の科学は生活の全ての領域、領域の隅々にまで貫いているからです。一切はそのために生きており、存在しているようです。それをすればいいのです。今日の人間はこのような生存状態であり、それはあなたの仕事です。携わっていればできるだけきちんと仕上げたほうがいいと思います。これは何の問題もありません。

得と失のことについては、これは修煉と関係のないことで、あなたの仕事です。仕事と修煉は分かれており、別のことです。仕事で修煉を代替することはできませんが、

修煉においての心性と状態は仕事及び全てのことに對する態度に反映されるのです。

弟子：もし宇宙が秩序のある系統であり、エネルギーが無限であれば、現在の混沌学説はどのように宇宙が按排した系統に適応するのでしょうか？

師：人間のここがいくら混乱し、学説がいくら多くても、昔古代の中国にも諸子百家があり、近代に各種の哲学や、宗教の学説がありましたが、どんなに説いても皆この次元のものです。宇宙に何の影響も与えません。このような例をあげると、人を罵っているように聞こえますが、そうではありません。私はただ例をあげているだけです。ゴミからどうしてもいろいろな臭いが出てきます。出さないようにするわけにはいきません。ですから宇宙と直接な関係がありません。ただ人間のこのところが混乱していることの現れです。混乱している時に人の心を見ます。混乱しているにもかかわらず、誰がまだ正念を持っているのかを見るのです。

弟子：私は八時間二十分座禅したことがあります。それからいつも足を引きずりながら歩いているのです。今はもう大分良くなりましたが、私は本当に間違ったのでしょうか？

師：八時間あまり座禅するというのは試してみるだけでできることではありません。煉功を自分の能力の範囲内でできるだけ多くするのはいいことです。限界を超えて、どうしても長く座禅し、どうしても何かをしようとするれば、もちろん修煉という気持ちは非常に素晴らしいですが、これではまたもう一種の執着ではありませんか。もし座禅そのものに執着があれば、多分あなたに悟らせ、分からせる要素をもたらしているのかもしれない。ですから、皆さんは修煉をしますが、如何なる執着心も抱かないでください。どうしても何かの一位になりたいとか、私はどうしても他の誰かよりも長く座禅したいとか、或いは他の何かの執着心を起こしたら必ず逆効果になります。大法修煉において執着心を生み出すようなことは決してありません。執着心を取り除くしかありません。

もし長く修煉して、自然にこれほど長く座禅ができ、時間もあり、家にも別にやることもなく、座禅がついこれほど長くなってしまったのであれば、それでもいいと思います。しかし、また一つの問題があると思います。私は以前話したように、我々の大法は長期間禅定に入ったまま修煉することを提唱しません。本を多く読み、法を多く勉強し、意識がはっきりしている状態で心を修煉し、法に基づいて向上しなければなりません。修煉の動作は圓滿成就の補助的な手段に過ぎません。この八時間を法の勉強にかけたら大いに向上できると思います。実は以前皆さんにお話したように、この法を伝えた当初に「常人社会の状態にいる人はどう修煉すべきか」について既に考

慮したのです。時間がきつく、仕事で忙しい人は間違いなく長く座禅する時間がありません。

実はこのことについて既にお話したことがあります。三十分しか座禅する時間がなくても、落ちこぼれさせてはいけません。煉功の動作の中で解決すべき問題は取り残してはいけません。これはこのような形式の修煉に適應するためです。もし皆毎日八時間座禅したら、常人社会の仕事をする人もいなくなり、周りの人からも理解されません。これははいけません。私は一つの道理について説いています。こうしてはいけない、ああしてはいけないと言っているのではありません。もしあなたが時間的に非常に余裕があって、自然に長く座禅できるとしたら、座禅しても私は反対しません。つまり如何なることに対しても執着心を抱きながらしてはいけません。

私の考え方はおおむね東洋人的ですが、先ほどのように話し、いつも弁証法的に話していますが、白人の学習者は分かったのでしょうか？ 皆さん分かったのでしょうか？（拍手） 良かったです。私が説法をする時の考え方はいつも東洋人のスタイルですので、皆さんにちょっと尋ねてみたのです。

弟子：三界内で形成された生命は修煉によって三界を突破しようとしても至難のことなのではないでしょうか？

師：そうとは限りません。今までの修煉だと非常に難しく、完全にできないとも言えます。衆生を済度するというのは実は自分の世界から来た人を済度しにきています。釈迦牟尼佛とイエスが降りて来て人を済度しましたが、彼らの人種の範囲内であれば、誰をも済度するのです。しかし、それにもある程度の局限性があります。現在宇宙の全ての生命に対して彼らの位置を新たに定めています。ですから、このことに関してはまだ機会があると思います。その生命はこの全てにどう対処するかにかかっています。

弟子：大法は佛家、道家と奇門の法理を含んでいますが、ほかの如来が証明し悟った法理は私たちに指導作用があるのでしょうか？

師：ありません。大法は全てを内包し覆っていますが、あるレベルの低い道、法門或いはある如来の理を加えてはいけません。そうすれば、あなたの悟りをずらすに決まっています。それらのものは宇宙大法と比べものにならないからです。異なる次元における認識及びその果位は全て大法によって造成されたのです。皆さんが大法の中で修煉して得た全ての中に、自分自身が法に対し悟ったものもありますが、それは即ち皆さんが得た果位です。

ちなみに皆さんに言うておきますが、来場した方々の中に、初めてきた人もいます。まだ私の本を読んだことがなく、大法の学習者或いは親戚に連れられてこられたのです。ここに座ることができるのは多分皆縁だと思えます。しかし、皆さんに教えますが、あなた方が提出した質問に答える時間はありません。なぜでしょうか？ 私がここに来るのは容易なことではなく、彼らも何年かに一回法会を開いて、修煉の中でぶつかった多くの問題を私に解答してもらいたいのです。ですから、この時間は修煉者にとって非常に貴重なのです。私はこの時間をあなた方にさいてあげるわけにはいきません。どうかお許してください。なぜでしょうか？ あなた方から出された質問は往々にして常人に関することです。しかし人類社会のことに私は触れません。先ほどもし先生がそれほど有能であれば、どうして国家の経済をよく発展させないのでしょうか、といった質問を出した人もいました。人類社会の発展が規律に則って進んでいることは誰にも分かっています。どの時期に来たらどうなるべきかは全て神が定めたのです。佛、道、神は皆この全てを守っています。決して勝手にしてはいけません。もしこんなに多くの神が自分勝手にしたら、経済を発展させるどころか、天下がとくに乱れてしまったはずですよ。

しかし、出された質問からみると、第一にこの人は修煉の人ではありません。第二に挑発しているようです。第三に彼は常人の基点から物事を考えています。人間が何かを成し遂げたければ、神はそれをしてあげなければならないのでしょうか？ 人間が何かを成し遂げたければ、天はそうしてあげなければならないのでしょうか？ 神は人間の指示に従わなければならないのでしょうか？ あなたは国の経済が良くなるのが大事だと思っていますが、神が他のことをもっと重要視していることがお分かりでしょうか！ 人に福がないというのは道德が墮落し、人の心が悪くなったからです。もし人の心が良くなると、福が舞い降りて国も繁栄してくるのです。これらの道理があなたに分かりますか？！ 人は既にここまで悪くなったのに、まだあれこれ欲しがっていますが、誰がそんなものを与えてくれるのでしょうか？！ ここではどの民族どの国に対して言っているわけではありません。私は一つの普遍的な法理を説いているのです。この理なのです。人は福を持ちたければ、業力を減らし、大きな徳があって始めて豊かになります。つまりまず人の心が善に向かい、業力が少なくなるといけません。でなければ、経済が発展しないだけでなく、天災や人災が相次いでやってくるのです。しかし、常人は悟りません。この全てが既に按排されているとは知らないのです。常人はやりたければ、できると思っているのです。

弟子：この世に専ら悪事を働く悪人も定められているからといって、彼らを許

すことができるのでしょうか？

師：できません。全てが定められているというのは人の生命が順序よく按排されているということを指しています。法の中に既に話したと思いますが、二通りの場合で、人の運命を変え、按排を変えることができます。一つは修煉の道に入ることです。あなたの一生に修煉ということはないので、あなたの全ての生命は新たに換えられるのです。もう一つは悪事を働くことで、運命を変えてしまうのです。絶えず悪事をすると、その人の一生の運命まで変えることができます。もし、人が悪事をしなければ、業を造ることもありません。ですから、悪事を働く時に運命を変えることができます。先天的な按排を変えることができますが、行った全てを償いながら全ての次元で消滅される羽目になります。修煉は人生を変えることができますが、これ以外何の方法もありません。

弟子：『轉法輪』を読むとき、奥義の深い理を読んでもすぐ忘れてしまいます。説法のテープも聞いた後、全て忘れてしまうのです。

師：これも正常なことです。一つは修煉し始める時、頭の中に良くないものが多すぎたからです。もう一つは法を得た一面が覚えたからです。つまり、修めて出来上がった部分は修煉するにつれ、向上の速度が速ければ速いほど、出来上がった部分は速く隔離されるのです。出来上がったらすぐ隔離され、隔離された途端、まだ基準に達していない部分と通じなくなります。ですから全て忘れたかのように感じます。つまりその部分は既に向こうの空間に行き、合格し、基準に到達し、法の要求に到達した時に昇華したのです。昇華したその部分は神ですので、決して人間と混在してはいけません。もちろんこれも必ずしもそうではありません。昔、山や森の奥で修煉している人はそうではなかったのです。彼らの場合、修煉の人は常人社会と接触しないからです。しかし大法弟子は常人社会で修煉しています。神の一面が常人と同じようなことをすることは、絶対許されないことなので、隔離するのです。あなたの人間としての一面はいいことをしても悪いことをしても、修めて出来上がった一面は動くことはなく、常人のことに一切参与しないのです。これで、あなたの修めて出来上がった部分が下へ落ちていかず、絶えず上へ上へと向上していくことが保障されます。これは最も良い方法です。

ですから、時にはまた忘れたかのような感じがし、或いはどうしてこの関門を既に乗り越えたのに、しばらく立つとまた同じ執着心が現れてくるのでしょうか？ つまり修めて出来上がった部分、基準に達した部分は既に隔離されたからです。しかし、完全にそうでもありません。絶えず堅実に修煉しているうちに、人としての最も表面的な部分もますます変り、覚えられる法の内容も多くなります。ですから、それはあ

る時期に出会う問題、現れてくる状況ですので、正常なことです。

弟子：最近ますますしゃべりたくなくなり、如何なることに対しても淡々として見えています。またよく物事を忘れてたりすることもあります。この状態は正しいでしょうか？

師：物事を忘れるというのはまた別の状況もあります。皆さんは常人の中に生活しており、特に中国というところでは多くの人とは他人と腹を探りあい、人と人とのトラブルに頭を使っています。そうすると、人の思想と考え方は非常に悪くなります。修煉者の考えに絶対相応しくないのです。人間は既に癖になりました。物事を考えるとすぐそちらのほうに頭をまわしてしまい、悪い念が生じるのです。どうしたらいいのでしょうか？ 私は皆さんのその部分の思想をまず閉鎖し、あまり活発化させないようにします。良い考えの部分を活発化させるのです。そうすると、この期間中、物事を忘れっぽくなります。これはあなたのためです。その思想が活動すると、悪い念が生じるのです。これは絶対いけないことです。その悪さを言っているのではなく、その思惟方式が間違っているからです。頭が動くと、すぐこのような思惟方式が出てくるのです。ですから、それを変えないといけません。一時期、物事を忘れやすくなるのは皆さんの修煉のためにそうしたのです。しかし、仕事と勉強に影響することはありません。もし自分がやっていることが変だと気づいたら、それは恐らくあなたの向上と関係しているでしょう。法理は絶えず昇華しているものです。いま悟っているのは正しいことでも、向上したら悟ったことは絶対正しいことではないことに気づくでしょう。更に向上したら、つい先ほど悟ったことはまたそれほど正しくなくなります。多分このような状態です。ですから、次元が高くまで修煉すればするほど正しくなるのです。

弟子：修煉は生命の本源から圓滿成就に至るのですが、功柱は頭のとっぺんから上へ伸び、圓滿成就に至ります。この二つの過程の間にどういう関係があるのでしょうか？

師：高エネルギー物質で身体を変えることは本体の変化です。大覚者は極めて大きなエネルギーを備えています。修煉の過程においてエネルギーの現れは功柱です。これは修煉者の法が外観として現れた一部です。その二つの存在形式です。自分自身の分子の変化を含め、修煉に必要な全てはこのエネルギーに頼っているのです。エネルギーは全てを変えることができます。大法修煉は生命の最もマイクロなところから始まっていますが、修煉者としてはその表面も変化しつつあります。ただ変化した比例は低く、多分百分の一ぐらいです。

弟子：修煉は人間のこの世の体が働いています。法理もますます理解できるようになりました。求めずとも自ずと得ます。このような認識は正しいでしょうか？

師：正しいです！ この状態は非常によいのです。この状態に到達したら非常に楽に感じ、落ち着きます。間断なく精進するにつれ、法理に対してもますます理解し、修煉もだんだん簡単になります。多くの物事を考えるとき、常人のように複雑に考えてしまうのではなく、一目瞭然です。常人に何かのトラブルが起こった時、言い合っただけで誰も折れないのです。しかし、あなたは彼らの論争に身を置かず、冷静な目で当事者を眺めると、良し悪しを判断することができます。もしあなたが常人から離れてから彼らの言い合いを見ると、当事者がそれほどしゃべらなくてもあなたには何でも分かってしまいます。どうしてこんなつまらないことで言い合っているのだろうと感ずるのです。一目瞭然で分かってしまいます。

弟子：私は既に年ですので、骨が硬く、双盤がなかなかできないのです。片足で座禅することもできません。ですから、あぐらをかいて煉功しています。

師：修煉はどんな年齢の人にとっても問題はありません。年配の人が修煉し難いという問題はありません。年齢には関係ないのです。法に対する理解はいくら年配の人でもいくら年少の人でもできます。座禅のことに至っては、もちろん年配の人に私はこのことに関して別に配慮します。一生座禅することのなかった人は骨や筋がこのような状態になることがなかったようです。どうしましょう。ゆっくりと練習し、焦らないでください。最終的にできると思います。八十、九十に近い人で座禅したことのない人でもできたのです。練習してみてください。自信を持ってください。昔の修煉の人が八十、九十、百歳以上になってからやっと得道したのはごく普通のことです。

弟子：これからの人類は大法を知ることがありませんが、但し『法定』という経文の中で、「千秋万代も私が自ら皆さんに残したこの道を歩まないで圓滿成就できません」と書いてありますが・・・。

師：皆さんに法を説く時に人類の言葉で説くしかありません。この法は宇宙の各次元において永遠に変わらないものです。永遠に変えてはいけません。ですから、この宇宙大法は永遠に不敗の地に立っています。しかもそれ自身に修繕の力があり、永遠に滅びないように絶えず円融しています。皆さんもご存知のように、人間はこれほど大きな法を聞く資格がないのです。釈迦牟尼佛は本当の法を説かないのではなく、イエスは人間に明白に法を説きたくないのではなく、人間はそれしか聞くことができないのです。でなければ、人間が神佛の理を知ってしまっただけではいけないのです。私は今日皆さんに多くの天機を話しましたが、皆さんが圓滿成就したら、それは人間に説いた

のではなく、神に教えたのです。

圓滿成就できない人なら、将来彼の記憶を拭い去るのです。知らせません。また大法を修煉して法輪世界に行く人もいます。この法門のものも入っています。ですから将来人間に教えるかどうかはこれからのことです。しかし大法そのものと私についてはこれからの人類は知ることができません。神話のように人々は長く伝えていきますが、最終的にこの次元の生命の位置を決める時、人々に残した大きな教訓もしっかりと覚えています。

弟子：法輪功は真・善・忍を重んじますが、天津で起こった法輪功修煉者に不公平な事件に対しても忍をすべきでしょうか？

師：このことについて既に皆さんにお話しましたので、これ以上話したくありません。忍は修煉者の一切の行為に反映されますが、行為がないということではありません。これほど大きな法が人に恣意に破壊されていれば、自分の意見を上申しに行くべきではありませんか？ もう一回皆さんに教えますが、北京に行った学習者は抗議、デモをしに行ったのではなく、彼らはスローガンもシュプレヒコールもなく、悪意もなく、全て善なる念に基づいて国の指導者に真実を上申しに行ったのです。このようなことはやるべきことだと思います。彼らは大法の修煉者に不公平なことをされたら、あたかも自分自身が不公平なことをされたように思っています。彼らが邪と言ったら、即ち私が邪だと言われているような具合です。全ての人はこのように感じているので、皆大法の名を糾し、国の指導者に上申しに行きたいのです。つまりこのような気持ちです。間違っていない！ 行った人は多かったですか？ 私に言わせると多くありません。一億人が煉功しているのですから、皆行ったら、それは大変なことになりますが、北京でも収容できません。全国に一億人がいるのに、一万人しか行かなかったのですが、どうして多いと思いますか？ もし本当に邪教と決め付けられたら、行く人は一万を越えると思います。政府に真実を陳述しに行くのは間違っていますか？ 間違っていない！（拍手）

私たちは政府に反対せず、政治に参加せず、皆良い人を目指しています。これでも間違いと言うのでしょうか？ これでも邪と言うのでしょうか？ もし皆常人と同じように振舞ってれば、何を言われても何も気にしないかもしれません。しかし、彼らは本当に良い人として生きているのに、さらに邪と言われたのですから、胸が痛むではありませんか？

弟子：善なる心の多少は先天の生命のいる次元によって決められているのでし

ようか？

師：善なる心は実は先天の本性です。この世では人の善良な先天の本性の現れとしか言いようがありません。完全に動物やそのほかの生物から転生した人間とは違いがあります。人間として善なる心は誰にもあります。全ての生命はそれがあある境地に形成された時に、そのレベルの境地の基準に符合しているのです。ただ後天的に形成された各種の観念は常人の中で、常人社会で立脚するために、絶えず自己防衛をし、自分の利益を守り、他人を傷つけているのです。善の心もだんだん失ってしまいました。

弟子：佛は最も次元が高く、人類は最も次元が低いのですが、佛から人間までの間にどのぐらいの次元があるのでしょうか？

師：あまり法を勉強していないようです。宇宙の構造について私の弟子に既に幾度となく話したので、本を読んでください。言い出すと、非常に大きなこととなりますが、長く話さなければなりません。一言で言い尽くせません。佛は最も次元が高いのではなく、あなたが想像したようではありません。昔、最も次元の高い神は無形であり、形体を持っていません。形体を持っている神は宇宙全体から見れば、中の下ぐらいです。上級以上のレベルでは、比類がないほど巨大な神は無形です。漂っている物質のようです。しかし、彼には思想があり、命があるのです。次元が高ければ高いほど、エネルギーが強く、力量が大きいのです。また次元が高いほど、智慧も大きいのです。

弟子：煉功して半年になります。まだ何も煉功の反応や状態が現れません。これは先生がわたしをかまってくれないということでしょうか？ 時にはわたしが大根器の人とも思うのですが、こんな考え方をしているのでしょうか？

師：あなたにあれこれそういう考え方があっても全くかまいません。ただしこれらの考えを執着にははいけません。考えたらそれを過ぎたことにしておくのです。それぞれの人に修煉の道はそれなりの按排がありますので、ひたすら修煉してください。大法は衆生に開かれています。弟子となった人の面倒を見なければ、それはわたしの問題になります。本当のところ、あなたは法理を分かることが出来て、その中で修めることができますが、変化した部分を感じとれないのですが、それはあなたが修煉していないということではありません。なぜなら、ある人はとても敏感で、ある人は敏感ではないからです。それに人の修煉の状態は同じではありません。さらにそれは大根器の人かもしれませんし、違うかもしれません。ですからどんな状況でもあり得るのです。

弟子：天人の次元まで修煉した人は肉体が死亡してから初めて彼の行くべきところへ行くのですか？

師：三界の内の天人は最大の一層の分子粒子で構成された身体を持っておらず、人の次元の粒子よりミクロ的な粒子で構成されるのです。ですから天人はこの次元の身体を持ちません。しかしわたしは三界の内でも圓滿成就ということではなく、三界を出られなければ圓滿成就ではないと説明しています。本当のところ、人によってはその行いが良くてつまり常人の中での良い人で、業力もわりと少なく、あるいは良いことをたくさん行なった人であれば修煉しなくても三界の異なる次元に行って天人になることもあり得ます。これには修煉はいりません。ただし年月が経つとまた、輪廻して下へ下りてきます。小道の修煉に至っては、三界から出られないのは別の原因ですが、それは小道のことなので、その人たちのことはかまいません。

弟子：物事に主体性がなく、すぐ人に影響されますが、これは己の精進が足りないということでしょうか？

師：それは理性の問題で、修煉者としては事を為すときに正念による主体性が必要です。

弟子：仕事をしっかりとこなすことと修煉は関係がありますか？

師：あなたが常人の中のことをやっている時、やるべきことをしっかり行い、また心性上の問題をひきずっていなければ、ただの技術上の問題です。それは修煉とは関係ありません。あなたが直面している問題に心性上の問題を伴っていれば、つまりあなたのやることは良いことにも悪いことにもなる可能性があるのです、思うにできるだけ修煉者の基準に照らしてやるべきなのです。

弟子：高エネルギー物質に転化された身体、あるいは部分的に転化した身体は、まだ物質空間の客観的な規律や制約を受けるのでしょうか？

師：完全に転化された後は受けません。まだ転化されていない部分であれば人類空間の影響を受けます。この空間の制約を受けることがあります。

弟子：(漢方で言うところの) 体を暖める食べ物を食べるとのぼせますし、冷やすものをとると咳をしますし、食べ過ぎると肥ります。

師：これは常人の提出する質問のようです。修煉者とは全く違います。なぜならば修煉者というのは自ら放したエネルギーによって意識的にも無意識的にも身体の状態を変えることができるので、常人とは違いがあるのです。修煉者が身体を暖める食べ物を食べることを恐れるのは一つの執着です。おまけにこのようなことではありません。一人の修煉者として法に基づいて法を認識し超常の理で己を推し量るべきです。いつも常人の理で己を量っているようでは、それはおかしいと思います。そうでしょ

う？ これは心性の問題です。冷やされたり、咳きをすることを恐れるのは常人ですから、あなたがまだ修煉していないことが分かります。わたし達修煉者の身体は最後には浄白体に到り、三界を出て高エネルギー物質で構成された身体になります。そうであれば修煉過程の中で高い基準で自らを求めなければいけないのではないのでしょうか？ 自分がそこに到達するまでは常人の観念で自らを量って求めるというのであれば、永遠に人のままです。なぜならば到達してもしなくても自分では分からないのですから、高い基準で己を律しなければいけません。

修煉しようと思うなら、試してみてください。ある学習者はかつて冷たい水が飲めませんでした、今は飲んでも大丈夫です。あれも恐れ、これも恐れていたのですが、今は全て問題ないのです。人が認識したのは人間の観念であるに過ぎません。昨日私が例に挙げましたが、ある学習者の言ったことですが、自動車にぶつかって両肩、そのほかの部分、骨盤が粉碎し、意識を失ったまま病院に送られました。病院でこの人の回復は難しい、この様子ですから、死後の準備をしてくださいと言われました。にもかかわらず、二日目には自分でベッドから降りて歩いていました。病院では理解できませんでした。医者はどうしてこの人が生きていられるのかと言いました。彼は家に戻りました。後に病院が今この人がどうなっているか知ろうとして、「彼はまだ歩いていますか」と聞きました。本当はまだ歩けるのですかと聞いたかったのです。「いいえ、歩いていません」と言うと、医者は「ほら、私はだめだと言ったでしょう」と言いました。聞かれた人はすぐ医者に「今は走れます」と言いました。(拍手) 当然人間の観念では理解できません。つまり修煉する人は自分が何をすべきか知っていませんし、いつまでも自分を常人と混同してはだめなのです。

弟子：師父は人を濟度するためにこれほど大きな門を開きました。それがなぜ多くの各空間の神に影響したのでしょうか？

師：私が法を正しているからです！ 彼らは法に正される対象となっているからです。全ての生命は己の未来の生命の位置を新たに定めています。

弟子：文章の中でよく先生のお話が引用されているのですが、どう処理すればよいのでしょうか？

師：燃やしてしまって構いません。なぜならばあなたは修煉の弟子ですから、不敬な心はありませんし、保存する場所がないからです。特に本を書き写す時、間違ってしまったものをどう処理すればいいかと聞かれたことがあります。それも焼却してしまえばいいのです。何の問題もありません。法は文字のその他の空間にあって、人間の火で焼けるものではありません。焼却されてなくなるものは最大粒子で構成される紙

とその表面のインクだけです。

弟子：座禅している時は動くべきではないのですが、もし無意識のうちに身体の構えが変わったら、元の状態に戻してもいいのでしょうか？

師：よいです。何の影響も受けません。間違ったと気づいたら、必ず正してください。でなければ、癖になったら、気機も変わってしまうので、必ず正してください。しかし、これは皆さんの動作が同じ型から作られ、一人一人の動作に違いがあってはいけないと言っているのではありません。それは不可能です。絶対あり得ないのです。ほぼ要求通りにすればよいのです。できるだけグループで煉功し、動作が揃うようにしてください。

弟子：二時間座禅しますが、球状加持と二つの柱状加持それぞれ三十分で、入定三十分、このようにしていいのでしょうか？

師：もし何の邪魔もなく、或いはあなたに時間的な余裕があって、またこれほど長く坐ることが出来れば、わたしは反対しません。しかし、日常生活、仕事と勉強に影響が出ないようにしてください。同時に、法の勉強を第一位にしてください。これらのことはあなた自身で段取りすればよいのです。あなたが間違っているとはいえません。人それぞれの時間の配分があるからです。しかし、くれぐれも法の勉強を第一にしてください。

弟子：わたしは既に五十七歳です。既に二年余り修煉していますが、まだ生理が来ていません。

師：人それぞれの状況は異なりますので、必ずしもそうなるというわけではありませんが、大体そうなるのです。個別のケースについてわたしは言うてはいけません。もしそれについて何かを言ったら、また普遍性のある問題になってしまいます。人それぞれの状況は違うので、修煉者としてそれを重く見てはいけません。いつもこのことばかり考えていれば、また一つの執着を形成してしまいます。生理があるかもしれないが、ないかもしれません。あってもあなたに見せずに、体内で転化してしまうかもしれません。ですから、気にかけるほどのことではありません。あればあっても、なければなくてもよいのです。いずれにせよ人によって状況が異なります。それがあつたからあなたは修煉でき、ないから修煉できなくなるということではありません。このような概念ではありません。

弟子：わたしはニュージーランドに住んでいますが、政府の補助金をいただかないと生活できなくなりますが、これで徳を失うのでしょうか？ 中国に帰っ

て修煉したほうがいいのでしょうか？

師：どこで修煉しても同じですが、私が構うことではありません。生活の問題に至っては、自分で解決できればそれに越したことはありません。出来なければ、あなたの間違いとも言えません。この国ではそのような福祉制度があるからです。しかし、解決できるかどうか、どこで修煉しているかどうか、もしあなたはこのような状況であれば、それを重く見ないほうがいとわたしは思います。どこで修煉しても圓滿成就できるのです。わたしは常人の状態に最大限に合せて修煉してくださいと言いましたが、中の内函はとても大きいのです。しかし、もしあなたが今ここで修煉したほうがよいと思っていればここで修煉すればよいのです。ただし、私が思うにはもし身体が丈夫な人であれば、できるだけこの問題を解決してください。年寄りの方であれば、このことを重く見ないで下さい。多くのことは表面的に見えることとは違います。特別の事情があれば、特別に対処します。このことに普遍性がないので、これ以上お話ししたくありません。

弟子：先生が「圓融」という経文の中に「捨て尽くす」ということを書きましたが、それは何を指しているのでしょうか。

師：つまりあなたの全ての執着を捨て尽くすということです。一つの執着があれば、それは一つの鍵、一つの関門、あなたを出発させない一本の綱のようですので、それを断ち切らなければなりません。もちろん、修煉の中で、どのように対処するか、どのようにこの執着を取り除くかについて私は既に説きました。執着心を放棄すると言えば、物質的なものを何もかも放棄し、みんな乞食になるということではありません。このことについてもう話しませんが、新しい学習者でまだよく分かっていない人は本を読んでください。

弟子：法を正す時期で、一部の高次元の衆生も大法のために何らかのいいことをしたいのですが、かえって障碍となり、彼らも片付けられています。

師：皆さんにお話しますが、衆生が大法からずれてしまったからこそ、法を正しているのです。それでは皆さん考えてください。彼らは大法のために良いことをしたい時、やはり今までの観念を抱いているのではありませんか？ 彼らの基準も従来基準ではありませんか？ ですから、良いことをするより、むしろ何もやらないほうがよいのです。かえって障碍をもたらしているかもしれません。無理にやればそれは破壊になります。つまりこの道理です。誰も手伝うことが出来ません。しかし彼らが百パーセント私の彼らへの要求の通りにしてくれれば、問題ありません。それこそ最も偉大なことです。

弟子：『洪吟』の中の「洪微十方看蒼窮」は、先生がミクロから天体を観察されていると理解してよろしいでしょうか？

師：その通りです。「洪微」の「洪」は最大の粒子を指し、あなた方が認識できる粒子を遥かに超えたものです。分かりやすく言えば巨大な宇宙の果てというのは大きな球になっているのではありませんか。それも粒子です。宇宙の衆生や宇宙の状態の形式を見る方法と、人の物体に対する見方は同じではなく、違うのです。微は極々ミクロという意味ですので、その「洪微」つまり最もミクロという意味があります。洪もそれ自身が洪大であることも表し、「洪微十方」とは最大のところを見て、さらに最もミクロなところをも見ると同時に、最も広いところまでも見なければならないということです。佛家の十方世界に対する概念はすなわち上下、四面八方を含めて包括してこれを十方とするという意味です。一目ですべて見渡さなければなりません。「洪微十方看蒼窮」は天体を理解して見ようとすれば即ちこのように見なければならないのです。当然その理解できるところまで理解すればよいのですから、あまり解説はしません。

弟子：ある人が職場で弘法をしたときに相手からもしあなたの病気が治ったらすぐに大法を学びますと言われたので、その責任者は病院に行って検査を受けたところその結果はよくなく、大変困惑しています。

師：これについてはあなたの心性の面で探してください。この質問を見ればただちに法を学ぶことが十分でないことが分かります。あなたの質問は表面的には簡単で、これほど長い間煉功しており、本来良い事をやろうとしているのに、どうして人にそれを証明することができないのでしょうか？ それほど簡単なことではないのです。修煉はあなたの向上あなたの執着心を取り除くことが一番大切です。他の人に法を得させるというのは他の人のことであって二の次のことであり、あくまでもあなたの向上が一番大切なのです。いかなることをするにせよ、本人の向上を離れて行なってははいけません。ですからこういった状況に出会ったら心性の面から足りないものを探してください。あなたに病気の状態がなく、しかも長いこと薬も飲んでおらず、ずっととても良いと感じています。もし病気があれば、それはどういう状態なのでしょう？ 病気があれば、仕事や生活や学習に影響します。普段も気分がよくなければそれこそ病気があるということではありませんか？ ずっと一抹の不安を抱いていて、あるいは何かの強い心があってやろうとすれば診断のときに仮の症状が出てくることもあり得るのです。そうなる可能性は高いのです。修煉は本当に厳粛なものです。というのもそれは最も厳粛なことだからです。別の視点から見れば、その人はあなたの病気が良くなったのなら学んでもいいというわけです。それはどんな心をもって来たのですか？ わたし達は法輪大法を学びに来る人を求めているのです。

弟子：わたしは中国語を教えている子ども達に法輪大法を学ばせようと思っています。しかしそれによって何らかの危険が生じないかと危惧しているのですが？

師：絶対に危険はありません。人にとって良いことがあるだけです。子どもには大人にあるような業力の問題や関を越えるといったことは起こりません。子どもには子どもの状態があってそういったことはあり得ないのです。

弟子：修煉者は歯の治療や入れ歯をしてもいいのでしょうか？

師：それは問題ありません。あなたの体の表面に変化が起こる前に壊れた歯はみっともないから治しておこうと思っても何の問題もありません。それはわたし達が衣服を身に着けるのと同じで、身に付けるものはきちんとしてなければいけないというのと同じ道理です。

弟子：師尊にお尋ねしたいのですが、有為と無為ということについてどう捉えればよいのでしょうか？

師：この問題についてはすでにお話しました。わたし達の大法の修煉の中での有為、無為と、過去の修煉の中で言っていることは違います。過去のものは一切の行為がすべて有為であって、食事をするのも道を歩くのもすべて有為であると見なしていました。ですから長期にわたって入定し動かなかったのです。即ち座禅することです。これを無為と見なしていたのです。しかしわたしの説く無為は今日の大法の修煉方式です。皆常人社会の中で生活していますから何もしないわけにはいきません。ですからわたし達が向上する最大のやり方は人心の向上でこれこそが最も根本的なところだと言っています。昔の人の説く無為もよし、苦修もよし、その最終目的は人心の向上なのです。しかしわたしは今日人心を直接指し、直接人心の向上をはかりますから大法の修煉が最も速いのです。

大法の説く無為とは自ら苦を探し、自分に修煉方式を手配したり、どうしても自分がいいと思っていることをしたり、あるいは自ら難を探すとか、どうしても何かをしようとする事など、これは全て有為のことなのです。この問題について皆さんは出来る限り無為を保ち自然にまかせて修煉してください。仕事をするのであれば仕事をし、本を読むのであれば本を読み、煉功するなら煉功するのです。現れてくる問題についてそれは修煉の中に現れて自らを向上させるためのものだと分かっている必要ありません。絶えず自らを向上させ、絶えず本を読むことが精進なのです。その他のあなたが良い、有益だと思って求めたことは、障碍であるかもしれません。ですか

らこれらの問題についてのわたしの認識は一人の大法を修煉する人として語るべきでないことは語らず、やるべきでないことはやらないということが即ち無為なのです。

弟子：法を学んでいる時に先生がなぜそういう形で説かれたのか悟ることがあります。このようなことが自然に現れてきたことは正常なことでしょうか？

師：それは修煉の中の正常な状態で、大体现れてくるのです。わたしが法を説く時の一つの特徴は、質問に答えている時に多くの人にとっては普遍性がなく、ただ一人二人の個別的な問題、あるいは大した意味のない問題であれば、その答えは往々にして質問に対する答えではありません。本当のところわたしは法を説いているので、無駄な話をするわけにはいきません。説いたことは人に残るもので、衆生すべてが聴くものだからです。ですから既に分かっている問題をもとにして、その問題に答えるわけにはいかないのです。わたしはその質問を借りて、その他の問題、さらに多くの人、さらに多くの生命に分かって欲しい問題について説いています。わたしが説法のとくに質問に答えている中であなたはすでに分かったけれど、あなたの質問はまだ読み終わっていないと気づいたのです。既にあなたが分かっているのであれば、わたしも言うことはありません。そこでその質問を借りてその他の問題を説きます。往々にしてこういったことです。ですからわたしの説き方は常人の質疑応答とは違います。

弟子：時に悟りが天体宇宙での物質生命の存在の道理、及び運動の規律に及びますが、この種の理解と未来の果位に本質的な区別はあるのでしょうか？

師：それはある現象の思想の中に展開していることで、いつもあるものです。多くの学習者は法を学んでいる中で異なる次元に現れる法理を会得したのです。ただしそれを語ることはできません。一旦口に出してしまうとその偉大さはさほどでもなくなり、常人の道理に似たものになってしまいます。というのは高い次元の法は人の言葉では語れないからです。わたしがあなた方に説いているのは、大まかな話で、法理の本当の現れはそういったものではありません。ですから時に皆さんがある次元の法理を真に悟りえることができれば、豁然として明らかになります。これは本当に向上し、理解し、昇華したことです。

皆さんが法理の中で悟った多くの問題は往々にして正しいのです。執着心を抱くことなく悟りに到ればすべて正しいのです。ただしある状況の下で抱いた執着心を放さず、無理に執着し言い訳を探そうとするのであれば、あなたの執着が思想業力をして偽の現象を現れさせ、法理の中に現れることではありません。ですからこれは偽物です。何の執着心も持たず何の観念も抱かなければ本当の法理を見ることができのです。たとえいかなる何らかの執着心をもって大法を量ろうとし、ここで言っているこ

とは正しい、あれは正しくない、これは同意するがあれは別の考え方があると思っ
たりすれば何も見ることができません。ですから法は厳粛なもので、法理、佛理が
人におし量られることは許されません。それゆえに見ることができないのです。あな
たの具体的なあるいは悟り得たものにいたっては、あなたの異なる次元において感じ
た状態、あなたの最終的な果位とは隔たりがあるのです。そうでなければ、あなたが
今日質問しなくても何でも分かるはずです。ですからそれはただ異なる境地、異なる
次元で知りえた法理の具体的な体現なのです。

**弟子：先生にお伺いしますが、なぜ新しい煉功音楽を作られたのでしょうか？
白人学習者はあまりなじまないと感じているのですが？**

師：それはマスターテープがすでに磨耗してだめになってしまったので新しく作った
のです。持っていたマスターテープがすべて使えなくなってしまいました。沢山複製
したから、品質はだめになりました。ですから皆さんが手に入れたテープはもっとだ
めかもしれません。この問題があったので新しく作製したのです。

もしあまり合わないということであれば元のテープを使って聞いても結構です。何
の問題もありません。新しいものを使って結構です。しかし新しく作ったものは皆
さんも音声がきれいであると感じています。新しく作ったものですから原版もきれい
です。ですから聴いてみればその方がはっきりしていることは間違いありません。こ
ういったわけです。ただし煉功に当たって自分がどう感じるかという違いのほか、修
煉の実質上なんら違いはありません。

弟子：先生に超物質について話して頂きたいのですが？

師：これについて話すわけにはいきません。仮にわたしがこれについて話してしまう
と、将来人はその空間を開くことができってしまうかもしれません。人がその空間を開
くことは許されないことであり、人がそれを知ることも許されません。

**弟子：わたしは中国語が分からないので翻訳が正しいかどうか分からないので
すが？**

師：あなた方中国語の分からない人は中国語の分かる学習者に質問して、それがどう
いう意味か聞いてください。ただしそれはとても難しいことです。九講全てを誰かに
翻訳してもらって聞くことはとても難しいからです。ただし幸いなことにその録音
が既に米国で出来ており、それはわたしの講話に合わせて翻訳されていますので、問題
はこれで解決しました。

弟子：わたしは病院で仕事をしているので、毎日病人と接しています。彼らの業力がわたしに影響することはあるのでしょうか？

師：病人の中には業力がある部分に強く反応している時、その部分が病気となるものがあります。本当のところ、とても多くの人の業力も非常に大きく、病となって現れず、普段の生活の不幸や、気分の悪さなどといったところで多く現れてくるのです。つまり至るところに業力があります。これはあなたの修煉に影響はなく、病院という仕事環境に影響されることもありません。というのはあなたの修煉するものは功であり、それらの業力は何らあなたを乱すものではありません。

わたしの記憶では、米国のある学習者は病理学の実験で細菌を培養していましたが、彼が手にしたガラス片の細菌が全て死んでしまいました。彼の手から発せられたエネルギーが、その細菌を殺してしまったので、そういった状況が起こり得るのです。なぜならわたし達のエネルギーは即ち功で、功は自ら修煉したものであり、本人の形象と思惟を帯びているからです。ですから自分の考えの中にこれは実験なのだから殺す必要はないと考えさえすれば功がそれを殺すことはないでしょう。これを聞いて学習者によっては心が動じてこの病毒め、このおれが殺してやると毎日考えてしまうかもしれません。けっしてこのような考えは持たないで下さい。これは一つの執着を形成してしまうことになります。構わず、自然にあなたを保護するようになります。それはあなたの修煉によってできたものだからです。

弟子：普段は煉功者の基準に基づいて己を律することができますが、夢の中ではいつも心性上よからぬことをやってしまいます。人と言いつ争ってしまうのです。

師：普段あなたたちの意識がはっきりしているときは自らを律して、うまく行うことができます。しかし往々にしてこの種の縛りは心性の関を完全に越えていないことがあります。面子を捨てられないということもありますし、理屈の上ではそうすべきだと思っても実際の考えの中ではそこに至らないこともあります。それでも表面の理で理性的に己を拘束することができます。しかし着実に基準に到達していないのはこのような行為です。そういった時に夢の中で皆さんを試練するのです。本当のところこれはあなたにこの方面で努力しなさいと明示しています。そういう意味です。夢は修煉ではありませんが皆さんへの試験であり、修煉の試験です。

弟子：人が皆、佛、道、神、幽霊は迷信だと言っていますが、わたしたちは洪法の中でどう説明すればよいのでしょうか？

師：あなたはそれらについて説明する必要はありません。なぜかというとなあなたの洪

法は人に法を得てもらおうということで、押し出そうとしているではありません。あなたがそのような高い次元の話をするとうる人々を追い出すことになります。あなたが初めたばかりの時、最低の次元の理解から始まったはずで、ですから大法はいかに良い人になるかということから説き始めているので、あなたもそこから話し始めてください。この法は人に病氣治療と健康保持を与え、人を高尚な人に変えられるというこの道理から説きます。それ後の問題は向上していくうちに自然に明らかになります。あなたがレベルの高すぎる話をすれば彼らは煉功しようとしなくなるのです。受け入れられないからです。

弟子：悟っているのに行動が到りません。これは確信犯ということになってしまっているのでしょうか？

師：それはすなわち自らを修煉者としていないことです。とはいえ多くの人が関を越えようとするときに悟りがそれに至っておらず、後になって冷静に振り返って見て分かることがあります、これも分かったうちに入れていいのです。ただ、その時にはできなただけです。そのことが分かってからさらに実行出来なければ、それは修煉がしっかりできていないということです。もしもその問題が再び起こった時に正しく対処できれば、関を越えたと言えます。もしも分かっているのに関を越えられなければ、しっかり着実に努力していかなければいけません。

弟子：修煉をはじめてから四、五年になります。どうすれば自分の修煉がどこまで到達しているのかを知ることができますか？

師：全く感じる事の無い人もいます。大切なことは自らを煉功者とすることで、わたしは長く生きられるからゆっくり修煉すればよいと思わないでください。修煉をし、大法を捨てず、確かに修煉しています。しかし、それほど努力しておらず、つまり精進していないということで、これではだめです！ 大法は厳肅なもので、そういった心で対処してはいけません。小法、小道であるとしても、この種の心構えをもって取り組んではいけません。これは大法ですから、皆さんはこれを大切にすることを知らなければならぬのです。それがあなたに与えるものは、小道ではどうやってもできません。ですからそれにふさわしい心構えで取り組まなければならぬのです。

弟子：魔性がとても強く、周囲の環境もよくないのですが、どう対処すればよいのでしょうか？

師：思うにこれはあなたの修煉と関係があり、あなたの業を滅しているか、あなたの心性を高めていることです。ですから、あなたは正しく対処しなければなりません。困難な状況におかれた人もいますが、あなたたちは修煉者ですから、それは皆さんに

とって良いことなのです。あなたは自分にとって何も良いところがないと思っているのはまだ常人の作った認識を捨てられないからです。不公平だとか、自分はそのように扱われるべきではないと感じ、もっと良くされるべきだと思うかもしれませんが。しかし、煉功者という立場で見た場合、誰もが皆良くしてくれるのであれば、どうやって修煉するのですか？ あなたの心はどうやって暴かれるのですか？ どうやって向上するのですか？ どうやって業を滅するのですか？ こういうことではありませんか？ ですからあなたの出会ったすべての魔難に対して、嫌がる心を抱かず、正しく対処すべきです。あなたたちは修煉者ですから、わたしとは違います。もしも誰かがわたしや大法にこのようなことをしたら、それは法の正すことを阻む邪悪な破壊なのです。

弟子：わたしの主人は九七年六月に関に遭い、業を消し、若干脳血栓の状態になりましたが、講法のビデオを見続けました。二十一日以後、ベッドから離れて講法を聞き続けることができました。九八年始め、身体の不便を克服して煉功点に行き、煉功し、法の学習をするようになりました。

師：以前法を学ぶときにそれほど精進していなければ、このような目に合うことがあります。ただし、すでに修煉に入っていますから、私も彼を修煉者として扱わなければなりません。本人が精進できなくても、師父として彼を修煉者と見なしているのです。とにかく学び、修めているのですから。脳血栓の後遺症は往々にしてとても重大です。多くの場合半身不随になってしまいます。でも彼の場合とても軽く済んだのです。正しい考えをもって自らに対処し、病人として対処しなければ、その状態にならなかったと思います。きちんと行なったら、良くなるはずです。また、その方面での業力がとても大きく、そうすることによってその業を消している場合もあります。同時にこのような状況の下で信念を持ち続けることができるかどうかを見ています。その問題もあり得ます。状況によって修煉の状態も変わり、人毎に違います。ただしわたしが最も気にしていることは、自らを修煉者として見なすことができるかどうかということです。その状況から見ると、彼も法を学び修煉をしています、取り除くべき心がまだあるようです。

もう一つ別の問題があります。もし他の家族も弟子で、このことを重く見たらそれも執着で、その状態を延ばすこともあります。修煉はあなた方を圓滿成就させ、あなたたちの向上に責任を持っているからです。その人に責任を負い、その人の業を滅すると同時に、あなたたちの執着心も取り去らなければなりません。あなたが本当の修煉者であって、本当に精進し、どんなことも放下できるのであれば、どうなるか見てください。必要以上に放下できなければ、一つの大きな執着となって、かえって他の

人にまでその影響が及びます。このことには注意してください。もちろん私が今話した状況はなかったかもしれませんが、別の状態かもしれませんが。つまり執着しないでください。私の説いているものは法理なのです。

弟子：修煉の中で大法の異なる次元の異なる己に対する要求に自ら合せていくのは、どうすればよいのでしょうか？

師：とても多くの学習者がこういった考えを持っています。あなたの置かれた状態の中での自らへの要求、その境地での基準に完全に合わせることはとても難しいことです。私はあなたが引き続き常人の中にあって修煉できるように常人としての一部分を残したからです。我々は最も良くない心から始めて一つずつ取り去っていきます。あるものは一段一段取り去っていきます。一段取ると次の一段があり、取り去れば取り去るほど表面に近づきます。全て取り去ればそのまま圓滿成就です。取り去る前はまだ人としての行動、人としての状態があるのです。これが、私があなた方に与えた常人の中にあって生活もでき、修煉もできる唯一の最も良い方法なのです。常人としてのものがある以上、今後自分に対して緩めてもいいのでしょうか？ だめです！ 私があなたに説いているのは道理です。あなたは常に精進し、自らに厳格に要求すべきで、それが修煉です。あなたが緩めてしまえば、また修煉ではなくなりますし、少なくとも精進していないということです。即ちこういう関係があるのです。全ての次元で取り除くべき常人としてのものは自ら修め、努力しなければなりません。

弟子：洪法の仕事をしている時、どうやって常人のことを大法の中に混ぜないようにすることができるのでしょうか？

師：常人としての心があるためにそれが現れてくるのです。大切なことは執着心、常人としての心があると気づいたら、どのように取り除くかが最も大切です。もし何か問題が現れた時にそれを取り除くことができれば、その時に行ったことが最も良く、最も神聖なのです。

弟子：宇宙に生命として誕生して以来、下へ落ちてこなかった生命はどの次元に属するのでしょうか？ また、どの天国に属しているのでしょうか？

師：この宇宙は茫々としていて、すべてに遍く及ぶものはすべて法で、全ては法が創造した世界であり、あなたの見ることのできるちり芥、砂粒に比べてさらに多く、数え切れないほど、量ることも出来ないほど多いのです。砂の中にも数え切れないほどあるのです。各次元の天体はそれぞれ生命を生み出すことができますし、生命の造成は次元や天国を問いません。わたしは生命が下へ落ちて来たと言いましたが、それは何兆分の一とも言えない状況で、しかも長い年月の中のことです。天上の生命は計算

できないほど多くいますが、地球上に何人がいるというのですか？ 人の考えで理解できることではありません。

弟子：佛があれば魔があり、魔があるから佛を修めることができるわけですが、魔が人として生まれてきた場合、悪事を働かなくても消滅されてしまうのですか？

師：この宇宙には魔王がおり、法王もおり、法王は即ち如来佛です。ある次元の中ではこのようになっており、即ち一種の相生相克の存在形式です。ただし魔はそれほど多くありません。一切のものに遍く及ぶものは全て正の神です。負は正を圧することはできないからです。ただその存在があるだけです。言い換えれば魔といえども宇宙から生じたもので、魔がなければあなたが本当に修煉することはできません。皆さんもご存知の通り、あなたは常人の中で修煉しています。人は人の魔性であなたに少なからぬトラブルをもたらすことが出来ます。あなたは絶えず向上し、精進していくのです。あなたが高い次元に到達すると人はトラブルを造り出すことができなくなってしまいます。人はあなたがそうなったのを見て人間としてのものが働かなくなりました。それは弱いものであなたはすでにある一定の次元で修煉しているからです。ですからあなたをかき乱すのは人のように見えても魔に動かされているもので、いろいろな次元の魔が人を動かし、修煉の妨げを作り出してあなたに修煉させないようにするのです。しかしあなたに修煉させないことはかえって業を消し、あなたを向上させる絶好の機会です。このようにこの問題を見ています。

宇宙の中に生まれてきて、やはり悪事の限りをつくすということですが、皆さんもご存知の通り密教のラマ教の中で修煉する時、紛れもなく魔を修煉する場合があります。なぜ魔も修めなければならないのでしょうか？ 修煉して魔王となるためには常人の七情六欲、各種の執着、人に対する執着を取り除いて始めてその境地に到達することができるのです。ではどうして魔になってしまうのでしょうか？ 彼は善を修めないで魔王となり、その基準、その境地に達します。しかし、彼は魔王なのです。常人の中で悪事の限りを尽くしているのであれば神が生まれ変わったとしても魔が生まれ変わったとしても全て破滅に臨むことになります。つまりこういうことです。たとえば魔が転生して人となっても人類のことを破壊しなければ消滅することはできません。もし法を得られれば同じく修煉することによって圓滿成就することもできるのです。

弟子：「功が開いた後再び修煉することはできない」ということはもはや煉功しなくてもよいし、心性を向上しなくてもよいということでしょうか？

師：それはすでに極めるべき果位を悟り得たからです。悟りを開けば、それ以後はもはや人としての考えはなく、全く別の思惟であり、別の存在方式なのです。あなたの境地より下にあるもの全てを見通すことができますし、各次元もそれぞれ全て見ることが出来ます。今あなたが人として考えていることとは全く違います。あなたがその果位を悟り得たから、修煉は既に終わりました。修煉は生命にとって永続にある方式ではなく、人が本来あるべきところへ昇っていく過程であり、生命の永遠の過程ではありません。

弟子：低い次元で功を開いた場合、その次元をどう保てばよいのでしょうか？この世でさらに上へ修煉することはできるのでしょうか？

師：なぜ低い次元で功を開くのですか？ 三界の内には果位はまったくありません。ただし、わたしは皆さんが本当の圓滿成就をできるようにはかっており、既に悟りを開ける状態にいる人も少なくありませんが、まだ開かせていませんし、一人も悟りを開いていません。このことはわたしがまとめて按排しているからです。皆さんの修煉についての按排は基本的にその人の受け入れ能力や持っているものに基づいて行なっていますのでとても確かです。人の考えでは認識できません。もしあなたがもともと鋼であるなら鉄にすることはありません。

弟子：禅宗の六祖は菩薩ではありませんか？ その人が神秀と確執があったということは執着なのではありませんか？

師：初果羅漢です。でもこのことは私たちの修煉とは何の関係もありません。私はあなたに大法大道を教えています。にもかかわらずあなたはどうしても小道上のあれこれを訪ねています。達磨自身は佛になっておらず、正果羅漢だったのでその弟子の最高位も羅漢です。佛でなければ、説く道理も佛理となり得るでしょうか？ 当然違います。達磨にしても、その後をついだ五祖にしても、本当のところすべて面倒をみってくれる佛がいたのです。でないと、羅漢にさえ到達することはできません。達磨の説いたものは佛法ではなく自らが悟り得た境地の中の羅漢という果位での道理だからです。

神秀との間での確執に至っては修行中での人心の表れです。わたしは漸悟であれ、頓悟であれ、修煉方法そのものは全て正しいと思います。彼らの置かれたその状態の下ではそうなるはずだと思います。もっとはっきり言えば一度に分かってしまうか、少しずつ分かっていくかということではありませんか？ 一度に圓滿成就に達するか少しずつ修煉によって圓滿成就するかということ、修煉によって圓滿成就できさえすれば、正法の修煉である限りどれでもよいのです。これは同じ道理なのではあり

ませんか？ それはただ修煉方法上の争いだけなのです。常人が宗教を擁護するように人間のところでこういうことは正しいのですが、神佛のところではすべて執着心と見なしています。宗教を擁護することをもって修煉し、圓滿成就できるのですか？ あなたのどんな心を取り去ることができるのですか？ 何も取り去ることは出来ず、かえって擁護するということ自体の執着を増やしてしまいます。ですから釈迦牟尼佛は一切の有為の法はうたかたの幻で全て有為だと言ったのです。宗教を擁護したら佛を擁護しているということになるのではありません。全くそういった概念はなく、人が人間の考えで作出したものです。

弟子： 私たちには功が半ば開くということはあるのでしょうか？

師： 漸悟の状態の中にはあります。実際のところ、それ自体は功が半ば開いていることです。程度が違うというだけのことです。このような人はたくさんいます。

弟子： 私は法輪大法への理解が極めて浅い者です。将来佛になりたいという願いを持って修煉しようとしていますが、これは執着でしょうか？

師： 当然それは執着です。学生の本分は勉強です。しっかり勉強すれば自然に成績も上がり、大学にも入れます。仕事をするのであれば、しっかりやれば良い成果が得られます。修煉それ自体を考えることは間違っただけではありませんし、佛になりたいと考えることは本来返本帰真で、それこそ宇宙の生命が最後に戻るべきところです。これが間違いと言えるのでしょうか？ 人が家に帰りたと思うことが間違いであり得るのでしょうか？ 間違いではありません。しかしいつも頭の中で佛になりたい、いつ自分は佛になることができるのだろう、どうしても佛になりたいと考えているとします。それではそんなに強く思いつめているのであれば、これこそ執着です。

佛教の中のことについて多くの人は既に分からなくなっています。佛教の古い和尚は既に亡くなり、新しい和尚は文化大革命で長い間還俗し、文化大革命が終わってからまた和尚に戻り、住持となったのですから、間に大きな溝があり、昔の本当の修煉のことは全く知らず、理解もしていません。特に佛教は何回かの法難を経て、最も真髓のものが分からなくなりました。理解もできなくなりました。実際のところ歴代の禅宗は牛の角先をうかがっていると思われています。達磨も六代までは認めますが、その後法もなく彼の法も伝えることはできず、人に影響を及ぼすこともできないと言いました。にもかかわらず、現在の人はまだ禅宗を放そうとしません。六祖慧能の円寂から既に千年が過ぎたのですから、その後の伝承はもう認めませんでした。今既に六十代をも超えているはずなのに、人々はまだそれにしがみついています。達磨の説いたものは羅漢の法です。羅漢の法は最も三界に近く、最も低いものです。最も低い

法理ですから、人のいわゆる哲学理論に近く、人が容易に受け入れることができるのです。ですから、多くの人が哲学の最高の至理を得たかのように感じ、常人の道理として理解しています。今はこういう状況です。

弟子：なぜ衆生に宇宙の根本の大法を知らせるのですか？

師：彼らが圓滿成就した後は神となるからです。圓滿成就できなかつたものは新たな歴史が到来する前に、その位置を配置し直されたり、歴史の中で淘汰されたりします。皆さんに教えますが、私は多くの天機を話し、それほど大きな法を説いていますが、本当のところ私は人間の言葉で大まかに話しているだけで、本当の法理の本質は今のところ皆さんは知らないのです。しかし皆さんも分かっていて知っているのは修煉によってよくできた部分で、自分の次元の中で知るべき法理の一部でもあります。それは決してその次元の全てが表されているものではありません。本当の姿を人が知ることは許されず、歴代の宇宙はいつもこうだったのですから、彼らの知り得ることは彼らの知るべきことだけなのです。

弟子：生命が下へ落ちていくのはその次元の基準まで修煉できなかったということですか？

師：そうではありません。あなたが修煉でその果位に届かなかつたということは即ちそこに至らなかつたということです。その境地に直接産まれた生命はその境地の基準に符合しています。その次元で生じるべきでない念が生じ、その次元ですべきでないことをするとそのためにそこから落ちてしまうこともあり得ます。本来のところそれほど簡単ではありません。人の考えはとても活発で、どんな考えも起こり得るからです。それは後天的に形成された乱雑な観念と各種の業力が作用しているからです。それがなければ、あなたは人間の考えが清浄であることに気づくのです。佛の境地に到達すればそういった低能なものは全くなく、全て高尚なものです。何でも知っており、牛や馬の考えすら知っていますが、心が動じることはなく、考えたくもなく、念を動かさなくても全てを知っているのです。

弟子：どうすれば、自分がどこかの次元にとどまっていることを知ることができるのでしょうか？ またどうすればそこを突破できるのでしょうか？

師：本当のところ皆さんの修煉が停滞したのは自らが法を学ぶことにあまり力をいれず、自らへの要求をそれほど厳格に行なっていないということがその原因です。精進しようという心を緩めてはいけないことを決して忘れないようにしてください！ 一気に最後まで修煉してください！ このような大きな法で、人を修煉させているので、長い時間をかけるわけにはいきません。ですから必ず精進してください。

弟子：法輪功は既に佛法に比べてレベルが高いのに、なぜ法輪佛法というのですか？

師：あなたの言うことは私は分かりますが、私は既にはっきりと説きました。佛法に比べてレベルが高いと言いますが、何が佛法なのでしょう？ 釈迦牟尼佛の説いた法は佛法です。釈迦牟尼は自分の前に原始六佛がいたと言いました。では原始六佛の説いた法は佛法ではないのでしょうか？ 未来佛、彌勒佛の説いた法は佛法ではないのでしょうか？ それではそのほかにも恒河の砂の数ほどいる如来の説いた法は佛法ではないのでしょうか？ では一体何が佛法だと言うのでしょうか？ 釈迦牟尼佛は全ての如来を代表できるのでしょうか？ 代表できません。釈迦牟尼佛は全ての佛法を代表できるのでしょうか？ 代表できません。本人はこのことについて分かっていません。

なぜ法輪佛法、また法輪大法と言うのでしょうか？ 法輪佛法というのは現在の佛教とすぐ区別できるようにするためにつけた呼び方です。実は法輪大法を含め、全て常人の中の名前で、常人社会の中で与えた名前です。それは本当のところ宇宙の根本であって、宇宙の衆生及び、万事万物を造成した一切の根本です。

弟子：佛法修煉の法門はとても多いのですが、人によってその人に適した修煉の法門がありますか？

師：そのような言い方はありません。異なった人にわざわざ別々の法門を与えなければならないというのですか？ 佛法はそれほど厳肅ではないものですか？ 佛法は人間のために作り出されたものではなく、また人を濟度するためのものでもなく、ただ佛の人間に対する慈悲がそうさせているのです。釈迦牟尼佛が説いたように如来佛は恒河の砂の数ほど多くいますが、ただ釈迦牟尼佛だけがこの世に来られたのです。佛があなたをどうしても濟度しないとイケないのでしょうか？ 佛は人のために生まれたのではなく、そのような道理はありません。

弟子：一冊の法輪功の本が修煉する人を圓滿成就させることがあり得るのでしょうか？

師：私はあなたが何のためにここへ来たのか分かっています。やはり説明してあげます。釈迦牟尼佛在世の時、皆さんに法を説いた時は経書もありません。後に釈迦牟尼佛がなくなってから人々は釈迦牟尼の説いた話を思い起こし経書として書いたのです。そこで大きな違いが生じました。いつ、どこで、その環境といった特殊性が失われたのです。そういった有様ですが、その経書に基づいて多くの人が修煉して圓滿成

就したのです。あなたはこれを認めないのですか？ その佛経しかありませんが、人間は何の方法で修煉しようと思っているのでしょうか？

弟子：法輪大法は宇宙の大法ですが、どうしてまた八万四千法門の中の一つでもあるのでしょうか？

師：人間はそれしか認識できないからです。更に高い次元のことを説いて聞かせても理解できません。本当のところ、皆さんは考えてみたことはないでしょうか？ 宇宙全体が持っている佛法は八万四千法門だけではないでしょう。如来佛は恒河の砂ほど多いので、その如来佛それぞれ自ら悟った法理を持っているのですが、皆その境地のものです。その八万四千という数で十分でしょうか？ 八億四千万でも不十分です。とても多いのです！ 修煉の方法はとても多いのです。では全ての方法は我々の大法、宇宙大法がその次元の衆生のために切り開いた異なる法門ではないでしょうか？ 異なる次元の衆生に大法から悟りに至らせた大法の一部ではないでしょうか？ また、その中に私たちが今日説いていること、人が理解できる部分、その次元での法も含まれているのではないのでしょうか？ そうでしょう。私としても人が理解できるこの方法、概念で教えるしかありません。本当のところ、八万四千法門、八十億、八百億、八万億といっても不十分でとても多いのですが、それは全て大法の中から悟られたものです。我々の大法も常人に見せるような最もレベルの低いものがあります。ですから、これらの全てがそうではありませんか？ 私は釈迦牟尼佛が伝え残し、世人が知っているはずの八万四千法門という概念を持って、人が知り得る道理を概括し、人の正念を開かせているだけなのです。

弟子：今回法を正した後、宇宙に再びずれが発生するのでしょうか？

師：そういった質問はあなたが提出すべきものではなく、人の考えで想像できるようなものではありません。私が皆さんに言えることは、今度大法が一切を圓融し、修繕する能力を備えているから、不壊の法なのです。

弟子：私の頭は時々空っぽになって人の話していることも分からなくなります。これはどういうことでしょうか？

師：実はとても良い状態です。私たちは時に常人の中において考え方は実にずる賢いのです。他人があなたに少しばかり良くない話やあなたの考えに合っていない話をする時、警戒心を強め、自己を防衛し、他人を攻撃しようという思いが浮かんできます。これは完全に修煉者としての状態に符合していません。どうすればよいのでしょうか？ そこで修煉の時こういった考えを調整しなければなりません。調整期間にそういったあなたが馴染んだ自己防衛や他人を傷つける考えを使用させないのです。で

すから、頭がその方面に行こうとするとき、そういった考えがなくなり、空になるのです。往々にしてそうなのです。修煉者にとっていいことです。あなたの正念を強め、自己を制御することができるようになります。これは修煉の中の好ましい現象です。

弟子：宇宙にはかつて幾度も壊滅が起きました。その時に滅ぼされた高次元の生命や衆生、及び形神全滅などはどのような様子だったのでしょうか？

師：あなたの言う宇宙の概念とはなんのでしょうか？ あなたの考えは宇宙の本当の大きさを受け入れることができないので、自分で言っている宇宙がどれほど大きいのか分かっていません。つまりあなたがその考えを広げ、想像できる大きさはいくら大きくなったとしても、それはまだ極めて小さいのです。ただしどれほど大きくても、宇宙の中の一定の範囲内でこのようなことが発生するとすれば、その次元にいる一切の生命が壊滅され、全てなくなりますが、生命が個々に壊滅されることとは違いがあります。個別に壊滅される生命は各次元で業の償いをしながら、壊滅されています。つまり死んでも業力を償わなければならず、借りを返さなければならないのです。しかしこの種の爆発は一瞬にして全てを解体してしまい、全てなくなります。これはとても恐ろしいことで、極めて恐ろしいことです。

弟子：どのようにしたら全ての念が法に基づいて発し、また中庸で極端に走らないようにコントロールできるのでしょうか？

師：実は皆さんに教えますが、そういった形で物事を理解しないでください。 皆さんは修煉の中で普段の生活で如何なる問題、或いはトラブルに出会った時、己の至らないところを求めることができれば、それが修煉なのです。己の足らないところを求め、その後より良く振舞えば、それが即ち修煉です。自分が話す内容がどのように法に符合でき、どのように一挙一動も法の基準に合うことができるかということは向上に伴って自然にできるようになり、あなたの心性の高さもつまりあなたの言動です。法を学ぶことを重視しなければ、やろうとしてもできることではありません。

私に言えることは如何なることであれ、それを行い、考えている際、トラブルに出会って、己の問題のあり方が見えた時に、己を修めることができ、更によく対処できれば、それが私のあなたに対する要求です。それこそ大法を修煉する人の修煉の最も根本的な方法です。仕事は修煉ではありませんが、常人の中で現れる一切のことは全て修煉する人の考えの現れですし、修煉の中の行いは仕事の中に反映されます。つまり生活は修煉ではありませんが、修煉の中の状態はあなたの言行举止、生活状態の中に反映されます。中庸のことに至っては、それは私が法理に言い及んだ時、特殊な状況の下での皆さんに対する要求です。例えば、そうしたら良くないですが、大法に損

害を与えるからといって、極端に走ってしまい、これではいけないと忠告したら、彼はまた反対の極端に走ってしまうという場合です。その状況に対して話したのです。

弟子：時に煉功点の責任者に対して申し入れをしますが、彼らはいろいろな口実で私の申し入れを拒絶します。

師：二つの原因があり得ます。一つには彼が自分が正しいと思っている場合、もう一つは彼のほかの執着が妨げとなっている場合です。ただし、だからといって、彼が良くないとは言えません。というのは、彼は多くの心を取り去ったかもしれませんが、まだ修煉しており、まだ取り除かれていない常人の心があるから、執着し、常人としての観念を持っているかもしれません。ですから、何かをする時に、大法のことをする時でも常人の心が表れてくることもあります。これは間違いなくそうです。ですから、大法の仕事も修煉であり、大法の仕事も修煉と結びつけなければなりません。彼らも修煉している最中にいます。あなたも何も観念を持たないでください。どんなことをするにあたって、全て大法の利益に基づいて行なえば、うまくできるでしょう。もう一つは、あなたもまず己にどんな心があるかを探してください。あなたの申し入れが受け入れられない時、まず相手に問題があるか、或いはまず己を振り返って考えているかを反省してください。

弟子：『洪吟』の中に書かれている三教というのはどの三教ですか？

師：中国では即ち儒教、釈教、道教を指しています。これは中国という環境に対して言っているのです。

弟子：もし全ての弟子が法輪を持って圓滿成就するとすれば、全宇宙の異なる佛、神の世界全てに法輪があるということについてどう理解すればいいのでしょうか？

師：このことは随分昔に既に説いたことがあります。この学習者はまだ読んだことも聞いたこともないのでしょう。多くの方は法輪世界へ行くのではありません。私が皆さんに与えた法輪は皆さんが先天から持っている一切の物を宇宙の最も良いものに同化させるのです。法を正す過程が終われば、元のところへ戻り、あるべき姿に戻り、あなたが佛であるか、道であるか、神であるかを問いません。法輪世界に行くものは極めて限られています。私の行なっている全てのことは皆さんを宇宙の法に同化させることです。

弟子：宗教は自分が正しいと思っていますが、証拠がありません。法輪功も自分が正しいと言う証拠はありません。あなたは人々に自分の学説を信じ、他の

ものを信じてはいけないと言っています。

師：そうではありません。あなたは私の学習者ではありませんが、あなたがこういった問題を提起することに反対しません。というのは法に対してまだ分かっていない時、誰にでもあれこれの考えがあり得ます。本当のところ、私は人々に私を信じなさいとは言っていません。私は人に説いているのは全て法理であり、道理なのです。あなたが今日出かけて何をしようとしても、そうすればいいのです。誰も干渉しません。私は誰かに学ばなければいけないと言っているわけではなく、ただ人々に本当の修煉の真実を話しているだけです。何かを修めようと思うのは、それは自分自身のことです。恐れることはこのような法理を見ようもしないことです。これは千年も万年にも出会い難いことです。今まで誰も語ったことのないことであり、しかも以前は天機を人に聞かせることは許されなかったので、私はただ人に知らしめる程度のことをしています。何かを修煉したいというのは自分自身のことです。同時にそれぞれの宗教に構ってくれる神はいないということを人々に教えました。昔は懺悔するとき、神が聞いてくれていることを本当に感じることができました。甚だしい場合、頭の中にその答えを出してくれました。今はもうありません。ですからこの質問を提出した人に一度本を読んで、これがどういうことかを分かって欲しいのです。私たちは誰でも自分の考えを持っており、皆知識を持っています。本を読めば、それが正しいかどうか分かるでしょう。

弟子：私は煉功を教えるべきですか？ それとも自分の法の学習と煉功に専念したほうが良いのでしょうか？ 或いは両方をやったほうが良いのでしょうか？

師：あなたの向上とあなたの修煉がもっとも重要です。もちろん時間があれば、他の人の法を得ることを助けるべきで、それはとても良いことです。人は人類がどれほど恐ろしい境地にまで来てしまったのかを知りません。人にそれを教え、人に良い人になってほしいと思い、たとえ修煉はしなくても淘汰される境地へ行かないようにすることは悪いことではありません。これは悪いことではありません。もちろん修煉するようになれば更に良いことです！ それこそ人の最終的な目的であるからです。

弟子：考え方が簡単で、単一であればあるほど人間の殻を破りやすいのでしょうか？ 宇宙の特性から遠ざかるほど殻を破るのは難しいのでしょうか？

師：その通りです。多くの白人は単純で特に田舎にいる白人は本当に純朴です。あれこれの固定観念を持っておらず、持っていては極めて少なく、法を得る上での妨げは極めて小さいのです。ですから多くの白人は修煉を始めるとすぐに天目を開く人がとても多いようです。

弟子：時にこの世にいることに何の意義があるのか分からなくなってしまうのですが？

師：私たちは世間での修煉を大切にし、法理に基づいて断えず精進すべきです。常人の中の一切は修煉者にとって何の魅力もありません。それは修煉者の境地は常人のものよりレベルが高いからです。この世にいたくなく、つまらないと思うこのような状態が出現するのです。それは修煉にとってとても貴重な時機であり、向上する機会であると認識ができれば、大法の修煉を重く捉えれば、こういった気持ちがなくなります。

質疑応答はここまでにします。本来これは一日半の交流会でしたが、午後の部を増やして皆さんに多くお答えしました。私たちのこの交流会は総じて見ると、とても成功したと思います。この交流会を通じて皆さんもそれぞれの向上があったと思います。この交流会が終わってからそれを一つの弾みとして更に精進して、更に良くなれば、それこそ法会が達成すべき目的です。皆さんが向上することがこの大会の本当の目的です。でなければ、私たちの交流会は決して如何なる形式となってもいけません。どんな形式も人に修煉させることはできず、如何なる形式も人の心を変えることはできません。

皆さんがお互いに法を学ぶことを通してそれぞれの自分の足りないところを見出し、他の人がどのように修煉しているのか、自分がどのように修煉するのかが見えてくるはずですが、これをきっかけとして皆さんが更に精進し、一日も早く圓滿成就することを願っています。

私がここで解答したものは全て修煉に関することです。話したことは異なる次元でのことなので、常人にとっては高すぎるでしょう。当然皆さんの受け入れ能力も限られているので、あるものは完全に受け入れることができないかもしれません。しかしそれがどうであっても、皆さんがここに来たことは一つの縁なのです。皆さんはこの本を読んでみた方がいいのです。どんな観念を持つこともなく読めば、多くのことが見えてくるでしょう。どうしてこれほど多くの方が修煉しているのでしょうか？ このことからその理由を究明すべきです。人には思想があり、理性があり、現代人には知識があるので、良いか悪いか、真か偽かは自ら見て、自ら分析してください。ここに出席している全ての修煉者は誰かに強制的に修煉させられたのではなく、全て自ら修煉しようと思って、本当に大法の中で修煉しているので、今日のこの法会を開催することができたのです。今回の法会はとても圓滿であったと思います。戻ってから

も皆さんが一層精進するよう期待しています。どうもありがとうございました！（拍手）